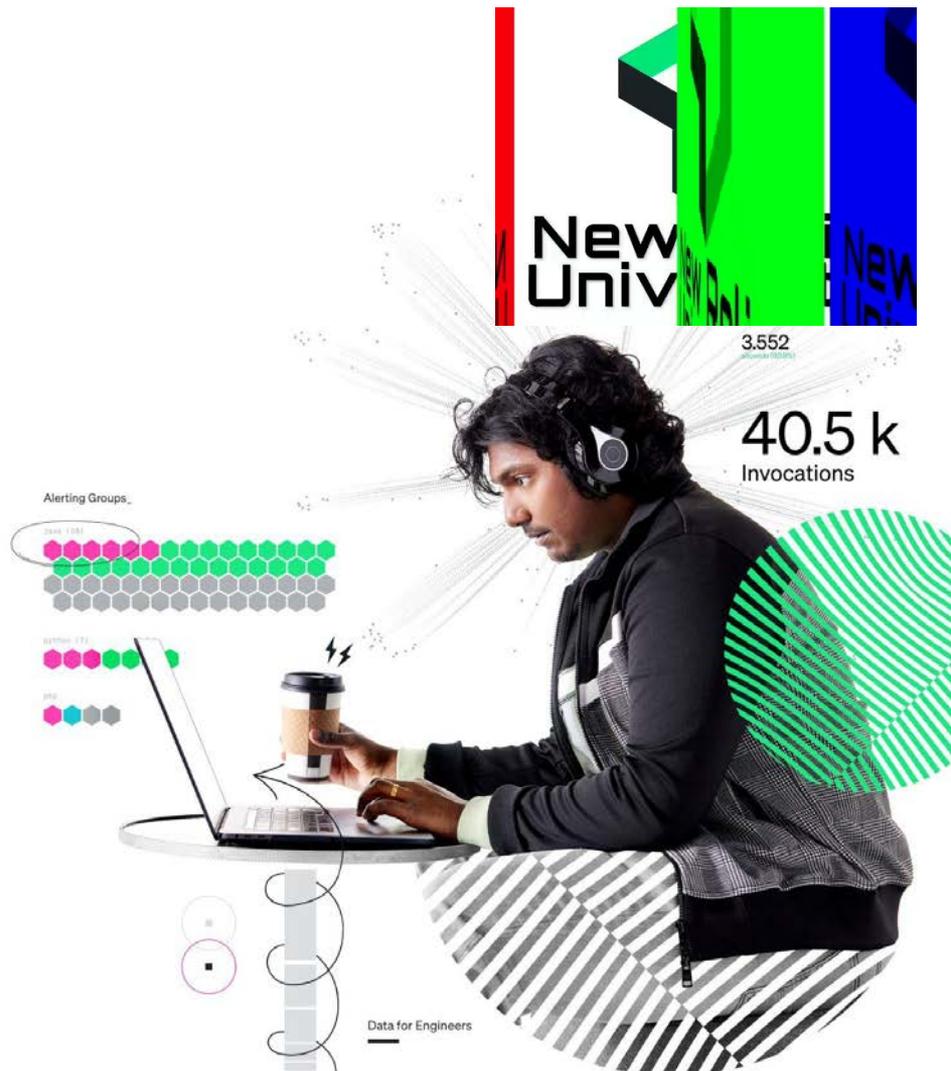




ダッシュボード開発と NRQLの基本編

NRU 302 - Dashboard / NRQL



ウェビナー 各種ご連絡

1. ご質問がある場合は、「Q&A」からご入力ください。



① 画面下
「Q&A」をクリック！

こちらにご質問をご記入し、
「送信」をクリックしてください！

②

2. 本日の資料はこの後「チャット」でURLを共有します。アクセスできない場合は、「Q&A」よりお名前とメールアドレスをご連絡ください。



Masayuki Saito

System Engineer

at System Integrator

Full Stack Engineer

at Retail Industry

New Relic

Solutions Consultant



本日のゴール

- New Relicのデータ分析機能について理解する
- New Relicが取得するデータ構造について理解する
- データ分析機能の中核となるNRQLについて理解する
- 自在にダッシュボードを作れるようになる
- アラート作成の概要を理解する

本ウェビナーの受講想定者

- New Relic を使用している
- すでに New Relic をハンズオンで触ったが、具体的なチャート作成や可視化方法を知りたい
- New Relicのアラート機能を使っている、またはこれから使いたいと思っている

New Relicの知識に不安のある方はこちらを受講ください! (オンデマンド視聴可)

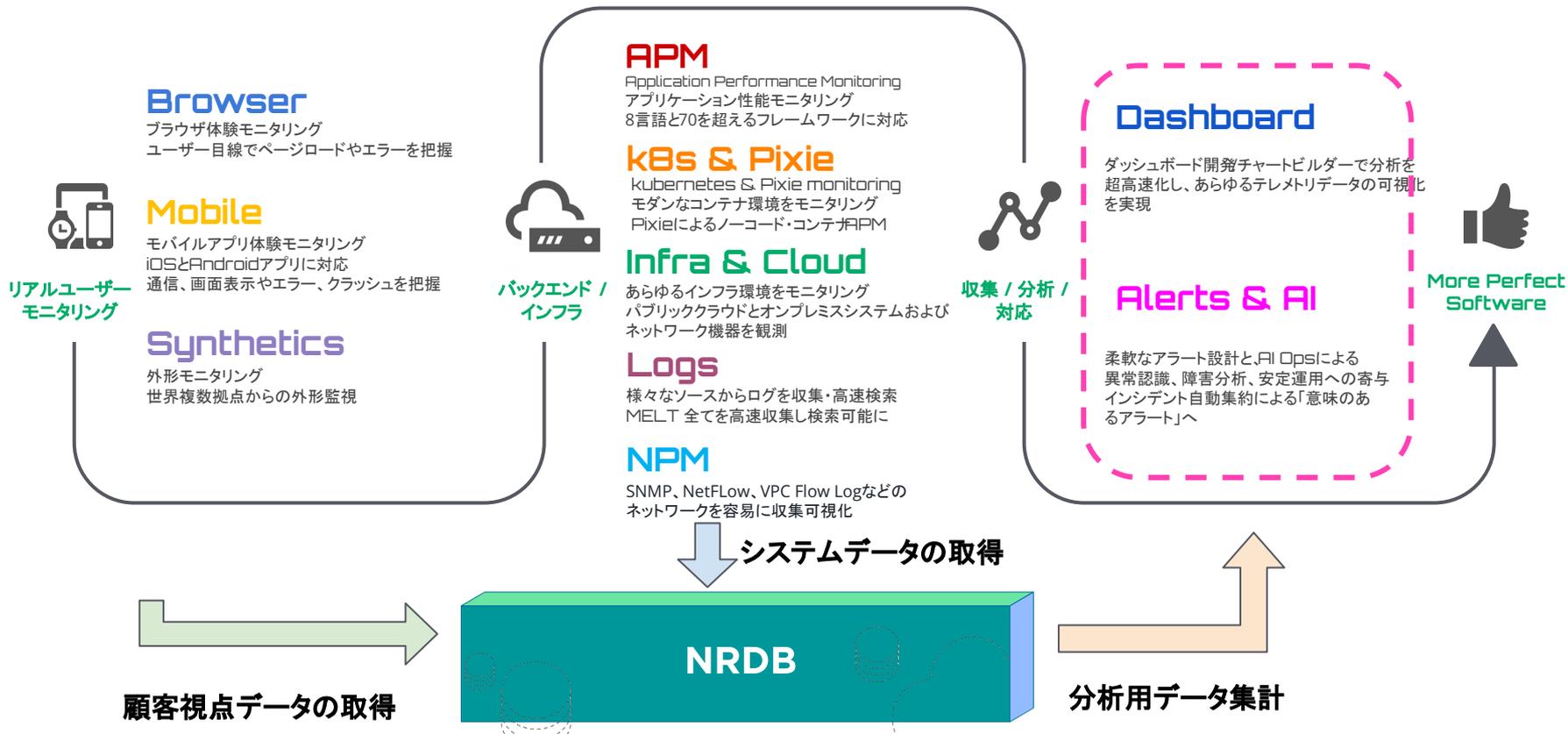
参考: <https://newrelic.com/jp/webinar/nrb-newrelic-essentials>

本日のタイムテーブル

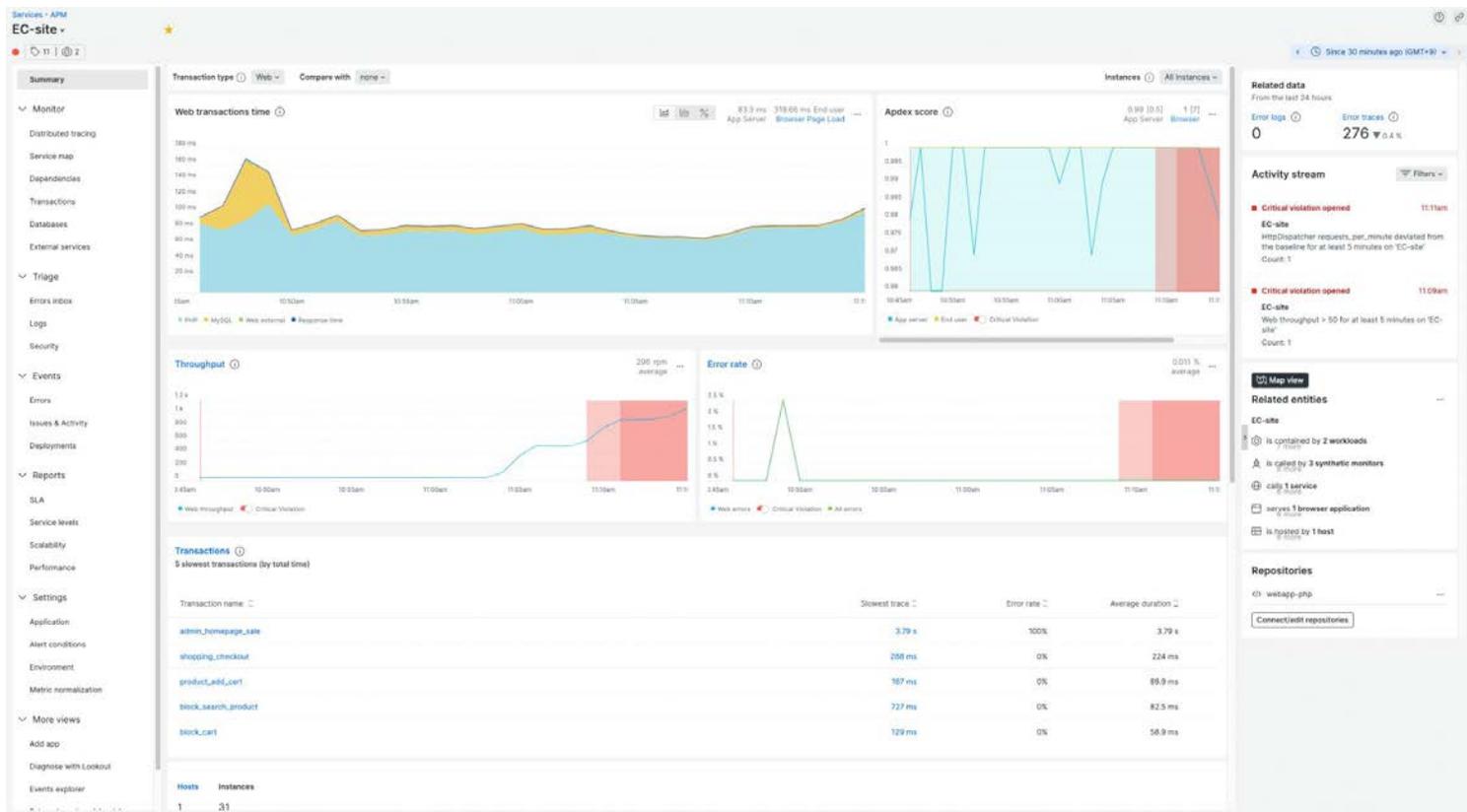
時間	タイプ	内容
15:00 - 15:20	座学	New Relicとデータ分析 New Relicが取得するデータ
15:20 - 15:40	ハンズオン	データの理解
15:40 - 15:50	座学	NRQL (New Relic Query Language)
15:50 - 16:10	ハンズオン	分析手法の習得
16:10 - 16:15	座学	New Relic ダッシュボード
16:15 - 16:35	ハンズオン	ダッシュボードの作成
16:35 - 16:40	座学	高度なアラート設定
16:40 - 16:50	ハンズオン	アラートの作成
16:50 - 17:00	--	まとめ、アンケートご記入

New Relicと データ分析

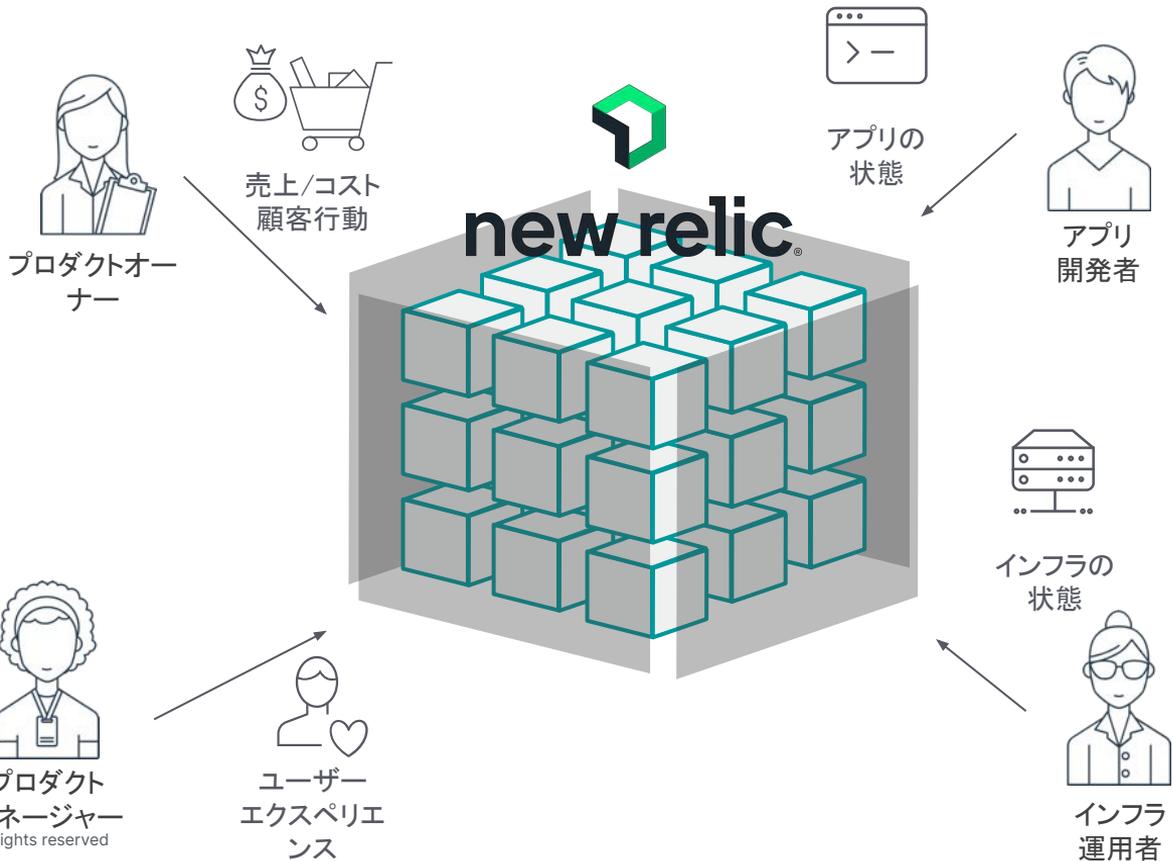
Full-Stack Observability Platform



ビルトインのUIでもデータ分析はできます



New Relic が提供するデータ分析機能



New Relicによるデータ分析のメリット



共通言語

それぞれの立場に沿った
共通言語をつくる



目標定量化

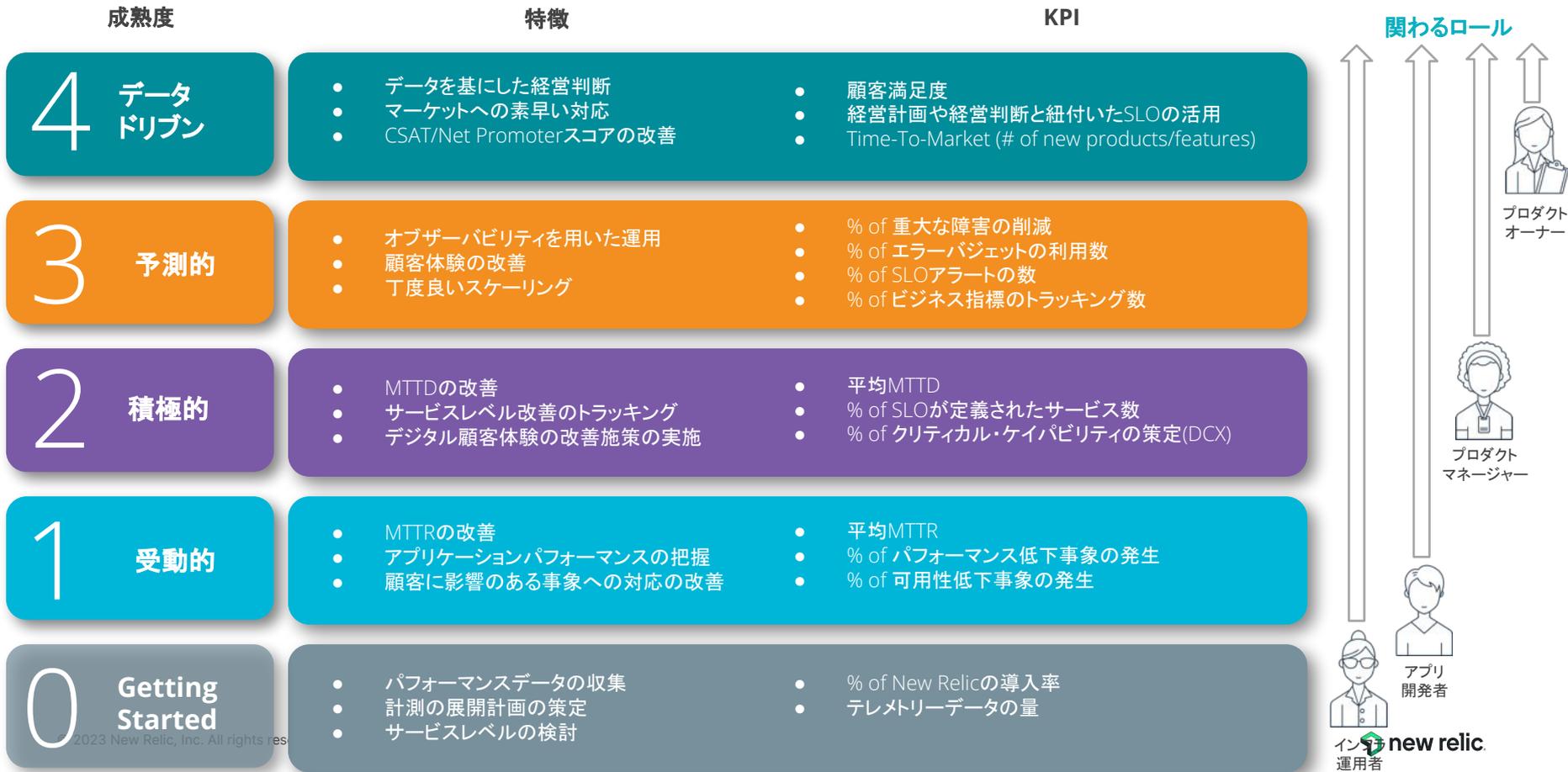
目標を計測可能にし、
中長期の目標値を合意する



達成確認

リアルタイムに
達成度合いを確認する

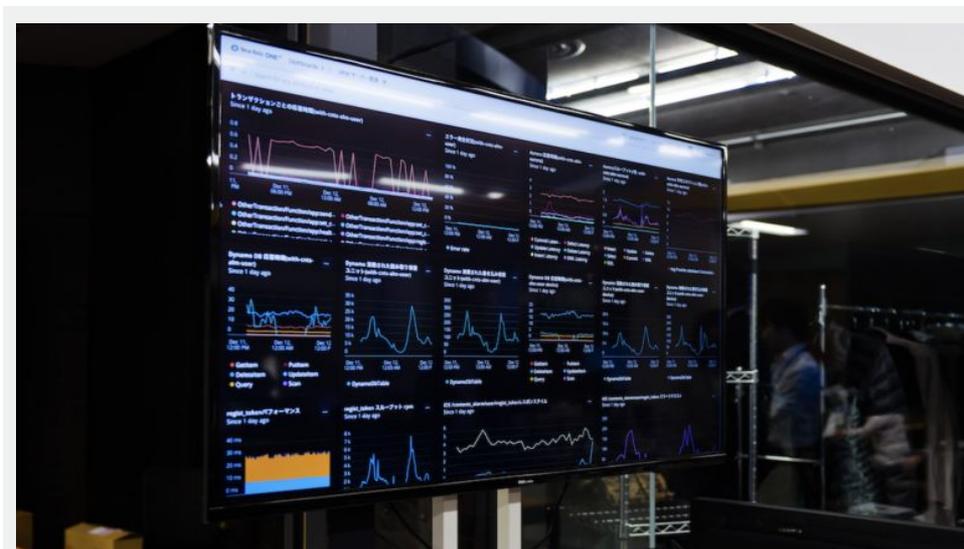
New Relic のObservability 成熟モデル



データ分析を活用いただいているお客様事例

株式会社ウェザーニューズ様

<https://newrelic.com/jp/customers/weathernews>



ウェザーニューズ社のオフィスに表示されている New Relic ダッシュボード

STEP1

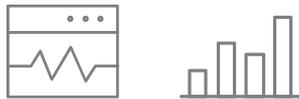
データの
理解

New Relicが 取得するデータ

New Relicが取得するデータ: MELT

M:メトリック

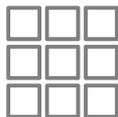
集計可能なデータの粒



例. キュー深度、
HTTPリクエスト数等

E:イベント

ある瞬間に発生する個別の
アクション



本日のトピック

L:ログ

個々の出来事の記録



例. デバッグログ、
エラーログ

T:トレース

単一ランザクションを構成する
あらゆる要素



例. 外部APIへのリクエスト、
DBへのクエリ等

参考: <https://newrelic.com/jp/blog/how-to-relic/metrics-events-logs-and-traces>

Eventとは

利用目的に応じた**Event名**と、複数の**属性(Attribute)**から成る構造化データ
New Relicが扱うデータの中核であり、以下の2つの手段で収集される

- 各種エージェント(APM,Browser,Mobile,Synthetics,Infrastructure)から送信
- Event APIでカスタムデータを送信
(<https://docs.newrelic.co.jp/docs/data-apis/ingest-apis/event-api/introduction-event-api/>)

参考: Eventデータについて

<https://docs.newrelic.co.jp/docs/data-apis/understand-data/new-relic-data-types/#event-data>

Event名について

- データ(Event)は種類に応じたEvent名が割り振られています
- 一例(他にも多数あります)

データソース	Event名	データの種類
APM	Transaction	トランザクションの所要時間を記録
	TransactionError	アプリで発生したエラーを記録
Browser	PageView	ページがロードされた際の所要時間を記録
	JavaScriptError	フロントエンドのエラーを記録
Infrastructure (クラウド連携)	FinanceSample	AWS 請求データを記録
	TrustedAdvisorSample	AWS Trusted Advisor によるリソースのガイダンスデータを記録

参考: New Relic製品で報告されるデフォルトイベント

<https://docs.newrelic.co.jp/docs/data-apis/understand-data/event-data/default-events-reported-new-relic-products/>

属性(Eventの構成要素)について

- Eventデータは複数の属性を持つJSON形式のデータになっています。
- 属性名はエージェントによって事前定義されているものもありますが、任意の属性を追加で送ることもできます (Custom Attribute: <https://docs.newrelic.co.jp/docs/data-apis/custom-data/custom-events/collect-custom-attributes/>)。

Transaction Eventの例

Transaction

```
"events": {
  {
    "appId": 445000097,
    "appName": "EC-site",
    "databaseCallCount": 2,
    "databaseDuration": 0.00041,
    "duration": 0.11225,
    "entityGuid": "MjUxMTY3MXxBUE18QVBQTE1DQVRJT058NDQ1MDAwMDk3",
    "error": false,
    "guid": "7ee4dbb4c9e14e31",
    "host": "ip-172-31-26-144.ap-northeast-1.compute.internal",
    "http.statusCode": 200,
    "http.responseCode": "200",
    "name": "WebTransaction/Action/block_search_product",
    "priority": 1.42012,
    "realAgentId": 445000099,
    "request.headers.accept": "text/html,application/xhtml+xml,application/json;q=0.9,application/javascript;q=0.9,text/javascript;q=0.9,appli",
    "request.headers.host": "ec2-3-113-215-132.ap-northeast-1.compute.amazonaws.com",
    "request.method": "GET",
    "request.uri": "/ec-cube/index.php/",
    "response.headers.contentType": "text/html",
    "response.statusCode": 200,
    "sampled": true,
    "timestamp": 1598476362069,
    "totalTime": 0.11225,
    "traceId": "7ee4dbb4c9e14e31",
    "transactionSubType": "Action",
    "transactionType": "Web"
  },
}
```



属性(Eventの構成要素)について

Transaction

```
"events": [
  {
    "appId": 445000097,
    "appName": "EC-site", アプリケーション名は"appName"という属性
    "databaseCallCount": 2,
    "databaseDuration": 0.00041,
    "duration": 0.11225, Transactionの応答時間は"duration"という属性
    "entityGuid": "MjUxMTY3MXxBUE18QVBQTE1DQVRJT058NDQ1MDAwMDk3",
    "error": false,
    "guid": "7ee4dbb4c9e14e31",
    "host": "ip-172-31-26-144.ap-northeast-1.compute.internal",
    "http.statusCode": 200,
    "http.responseCode": "200",
    "name": "WebTransaction/Action/block_search_product", Transactionの名前は"Name"という属性
    "priority": 1.42012,
    "realAgentId": 445000099,
```

ハンズオン - 環境について

New Relicにログインしてください。

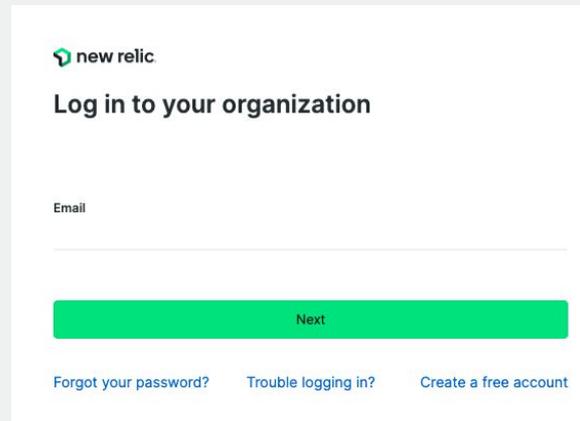
New Relic : <https://one.newrelic.com>

- ユーザー: japan-handson+2021@newrelic.com
- パスワード: [oSz6nrupas](#)
(オー、エス、ゼット、ロク、エヌ、アール、ユー、ピー、エー、エス)

[ご注意下さい]

普段New Relicをお使いの方はセッションが残っている場合がありますのでプライベートブラウジングをお使いください。また、普段お使いのNew Relicで併せて操作いただいても問題ありません。

- Chrome: シークレットウィンドウ
- Firefox: プライベートウィンドウ
- Edge: InPrivate ウィンドウ
- IE: New Relicの一部機能はIEをサポートしていません。
上記のいずれかのブラウザをご利用ください。



ハンズオン(1) データの理解

このハンズオンのセクションでは、以下の点を学習します。

- New Relic プラットフォームにログインする
- New Relic の様々なUIに触れてみる
- Metrics & eventsを起動し、データを参照する
- Metrics & eventsを活用して、収集したEventデータを参照する
- **Option!!** カスタムイベントを送信し、参照する



new relic®

15:20 - 15:40 (20min)

ハンズオン(1) データの理解

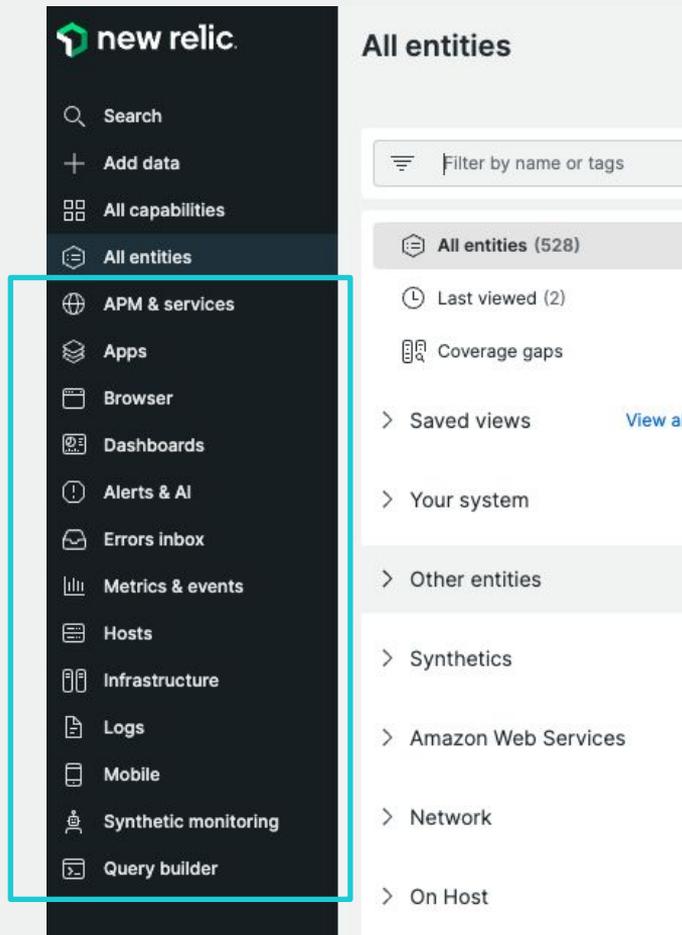
目的:

- イベントデータを確認する

New Relic ポータルのUIに触れてみる

New Relic にログインし、メニューを触ってみる

- メニューバーの中から数個メニューをクリックする
 - APM & services
 - Dashboard
 - Infrastructure
 - Logs



ハンズオン(1) データの理解

目的:

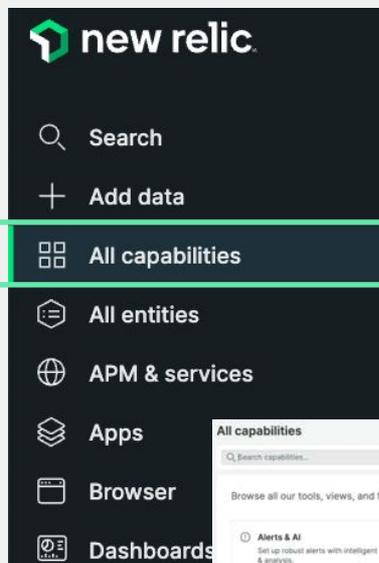
- イベントデータを確認する

イベントデータを確認するための手順
を実施する

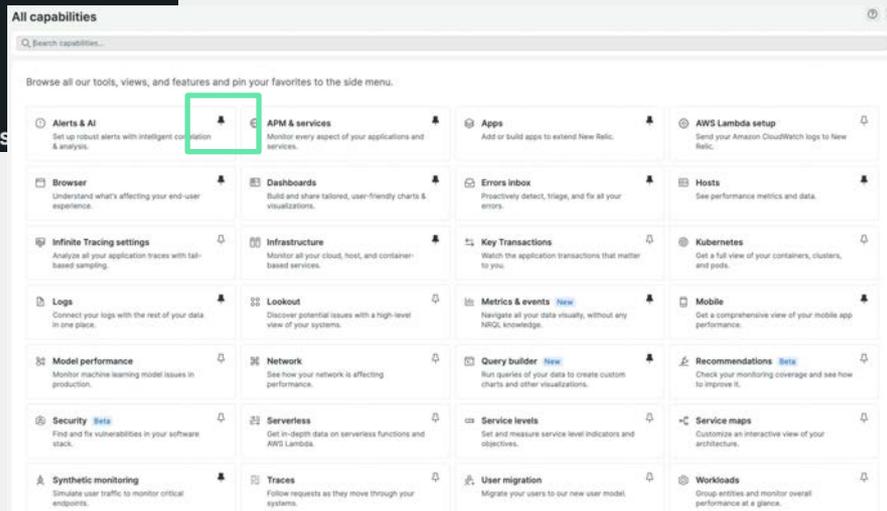
New Relic にログインし、Explorerを
参照する

- All capabilities をクリックする
- メニューバーにリスト化されてい
ない機能はピン留めすることも
可能

①



②



ハンズオン

ハンズオン(1) データの理解

目的:

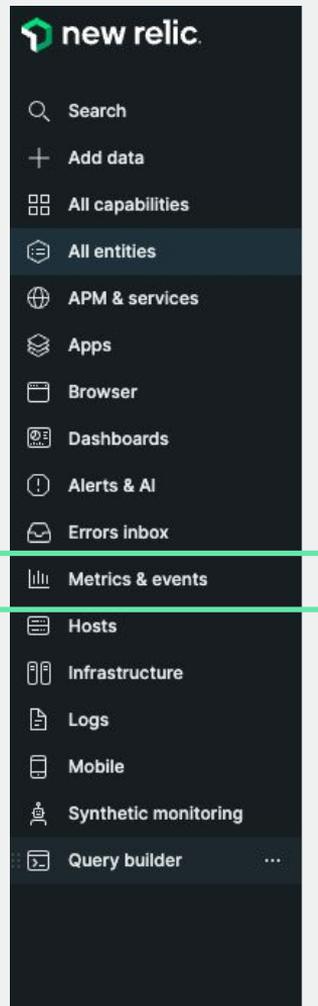
- イベントデータを確認する

イベントデータを確認するための手順
を実施する

New Relic にログインし、Explorerを
参照する

- Metrics & events をクリックする

①



ハンズオン(1) データの理解

目的:

- イベントデータを確認する

イベントデータを確認するための Data explorerを利用する

- Eventsをクリックする
- Event typeからTransactionを選択する
- </>マーク(JSON)をクリックする

どのようなデータを参照できるかを確認

次のページに続く

- Plotをクリックする

①

The screenshot shows the New Relic Data Explorer interface. On the left, the 'Metrics & events' section is active, with the 'Events' tab selected. Under 'Event type', 'Transaction' is highlighted. The main area displays an NRQL query: 'NRQL SELECT count(*) FROM Transaction SINCE 30 MINUTES AGO TIMESERIES'. Below the query, the 'Transaction' event details are shown in JSON format. A green box highlights the 'Events' tab, another green box highlights the 'Transaction' event type, and a third green box highlights the JSON output.

②

③

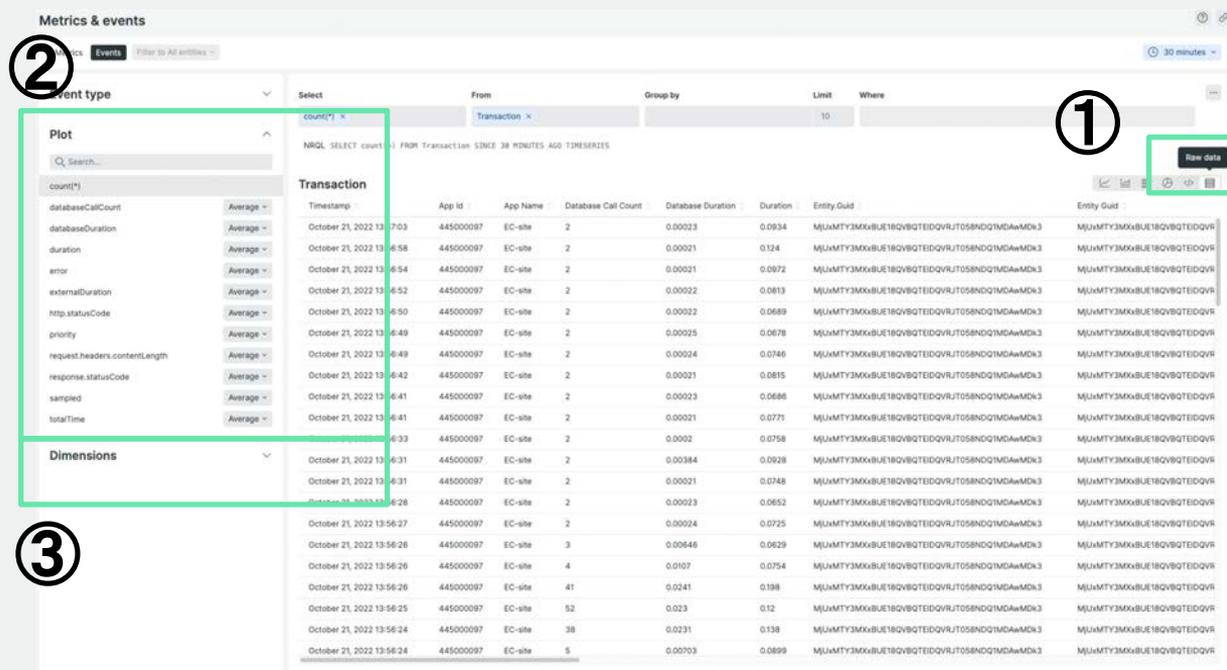
ハンズオン(1) データの理解

目的:

- イベントデータを確認する

イベントデータを確認するための Data explorerを利用する

- Raw dataをクリックし、個々のイベントの内容を確認する
- Plot領域から、どのような数値属性があるかを確認する
- Dimensions領域から、どのような文字列属性があるかを確認する



ハンズオン(1) データの理解

目的:

- カスタムイベントを送信する

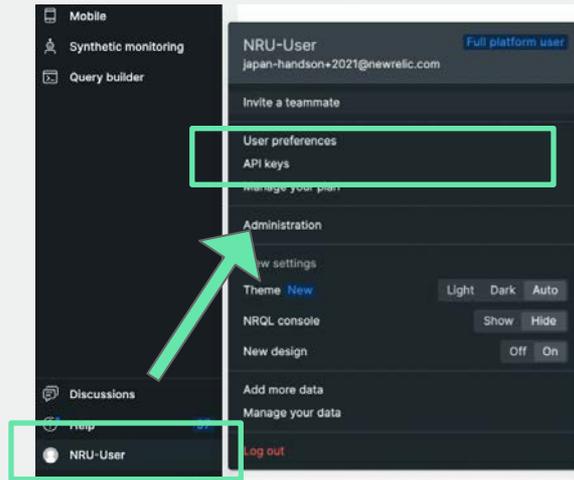
カスタムイベントを送信するための事前準備を実施する

APIキーを作成します。

- NewRelicUniversity-Japanアカウントを指定し、Ingest - Licenseキーを作成する
※Nameには、「NRU302-<企業名>-<イニシャル>」のように重複を避ける名前を設定してください。

参考:

<https://docs.newrelic.com/jp/docs/data-apis/ingest-apis/introduction-event-api/>



Create a key



Create an API key

Ingest keys are for getting data into New Relic:

- **License** keys for agent configuration and metric, event, log and trace APIs
- **Browser** keys for browser applications
- **Mobile** keys for mobile applications. To learn how to manage mobile keys, [see our docs](#)

User keys are for querying data and managing configurations (Alerts, Synthetics, dashboards, etc.)

To learn more about API keys, [see our docs](#)

Account

Account: 2511671 - NewRelicUniversity-Japan

Key type

Ingest - License

Name 例: NRU302-<企業名>-<イニシャル>

my_key_name

Notes

What do you want people to know about this key?

Cancel

Create a key

ハンズオン(1) データの理解

目的:

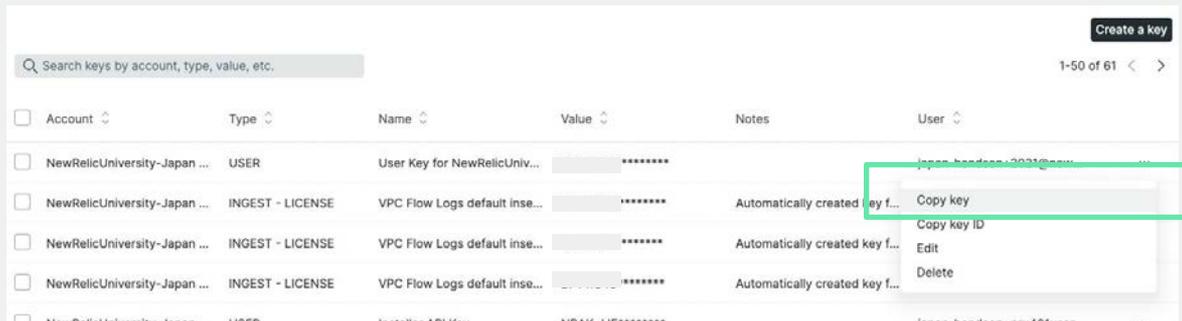
- カスタムイベントを送信する

作成したKeyの取得

- 先ほど作成したライセンスを選択して、[...]のプルダウンメニューからCopy keyにてKeyをコピーする

参考:

<https://docs.newrelic.com/jp/docs/data-apis/ingest-apis/introduction-event-api/>



補足:

APIキーには、OriginalのKeyが作成されていますが、セキュリティの観点から、新たに作成したKeyを活用することをお勧め致します。

ハンズオン(1) データの理解

目的:

- カスタムイベントを送信する

ターミナルにて作業を行う。

- Windows: Powershellを開く
- Mac: ターミナルを開く

参考:

<https://docs.newrelic.com/jp/docs/data-apis/ingest-apis/introduction-event-api/>



ハンズオン(1)

データの理解

目的:

- カスタムイベントを送信する

Windows上での作業

- 右のスクリプトを参考にし、.ps1ファイルとして保存する
参考情報: ([Github](#))
- 保存後、Powershell上で当該スクリプトを実行する

参考:

<https://docs.newrelic.com/jp/docs/data-apis/ingest-apis/introduction-event-api/>

Windowsの方はこちらです (Macは次ページ)

```
$accountId = "2511671"
$insertkey = "(控えておいたキー)"
# Replace with your custom event for the body
$body = "[{"eventType": "NRULab", "labnumber": 1, "initial": "ご自身のイニシャルに書き換えてください", "comment": "任意の文字列を入れてください(日本語可)"}]"

$headers = @{}
$headers.Add("X-Insert-Key", "$insertkey")
$headers.Add("Content-Encoding", "gzip")

$encoding = [System.Text.Encoding]::UTF8
$enc_data = $encoding.GetBytes($body)

$output = [System.IO.MemoryStream]::new()
$gzipStream = New-Object System.IO.Compression.GzipStream $output, ([IO.Compression.CompressionMode]::Compress)

$gzipStream.Write($enc_data, 0, $enc_data.Length)
$gzipStream.Close()
$gzipBody = $output.ToArray()

Invoke-WebRequest -Headers $headers -Method Post -Body $gzipBody
"https://insights-collector.newrelic.com/v1/accounts/$accountId/events"
```

ハンズオン(1)

データの理解

目的:

- カスタムイベントを送信する

Mac上での作業

- 右のJSONファイルを参考にし、ローカルにnrulab.jsonとして保存する
参考情報: ([Github](#))
- ターミナルを起動し、nrulab.jsonを保存したディレクトリに移動します。移動後、右のコマンドを実行する
参考情報: ([Github](#))

参考:

<https://docs.newrelic.com/jp/docs/data-apis/ingest-apis/introduction-event-api/>

Macの方はこちらです (Windowsは前ページ)

```
[
  {
    "eventType": "NRULab",
    "labnumber": 1,
    "initial": "ご自身のイニシャルに書き換えてください",
    "comment": "任意の文字列を入れてください(日本語可)"
  }
]
```

“nrulab.json”としてローカルに保存する



```
gzip -c nrulab.json | curl --data-binary @- -X POST -H "Content-Type: application/json" -H "X-Insert-Key: (控えておいたキー)" -H "Content-Encoding: gzip" https://insights-collector.newrelic.com/v1/accounts/2511671/events
```

“nrulab.json”のあるディレクトリで実行する

ハンズオン(1) データの理解

目的:

- カスタムイベントを送信する

送信したカスタムイベントを参照する

- メニューから Metrics & events をクリック

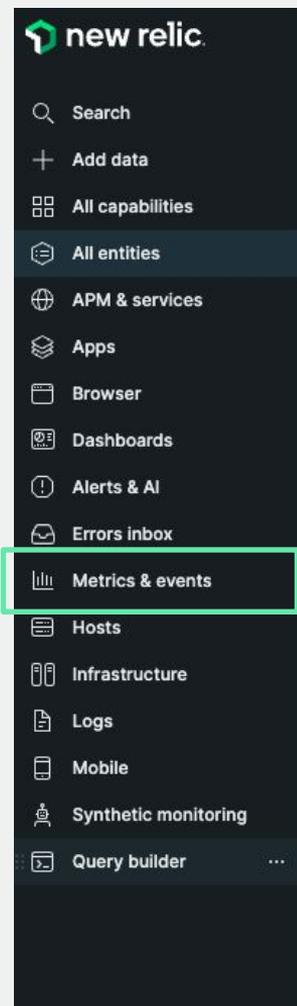
参考:

<https://docs.newrelic.com/jp/docs/data-apis/ingest-api/introduction-event-api/>

© 2023 New Relic, Inc. All rights reserved

ハンズオン

オプション演習



ハンズオン(1) データの理解

目的:

- カスタムイベントを送信する

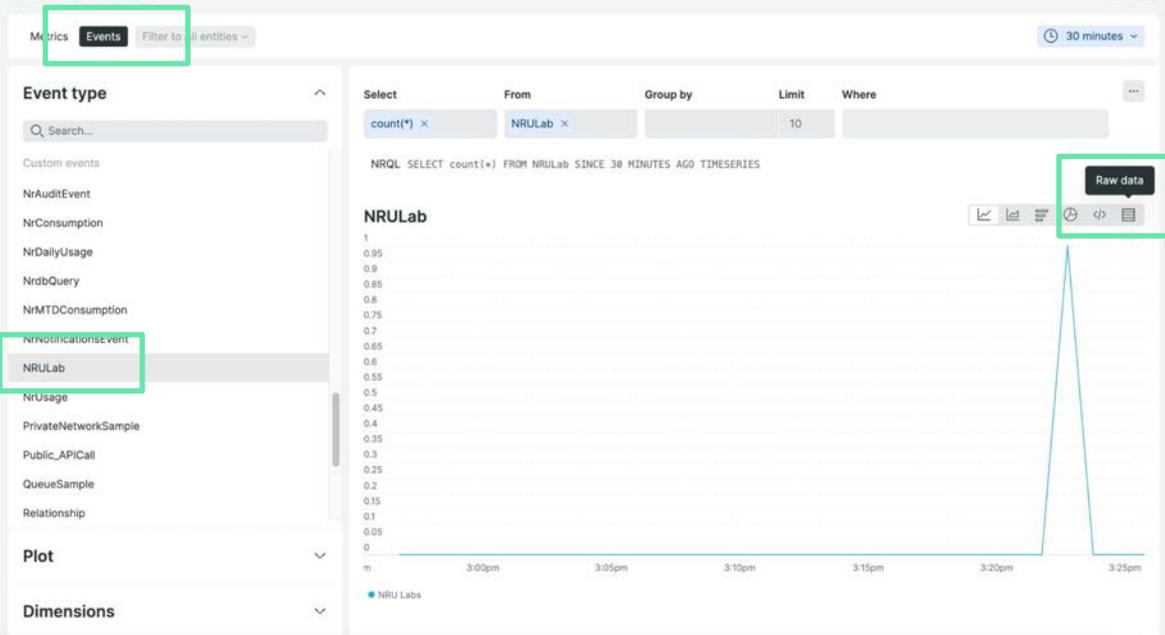
送信したカスタムイベントを参照する

- Eventsを選択し、Event typeがNRULabを選択する
- 受信したデータ内容を参照する場合、Raw dataをクリックする

参考:

<https://docs.newrelic.com/jp/docs/data-apis/ingest-api/introduction-event-api/>

Metrics & events



STEP2

分析手法
の習得

NRQL (New Relic Query Language)

NRQLとは

- New Relic Query Language の略
- Eventデータを含め、New Relic DBに格納されたデータを分析するためのクエリ言語

The logo for NRQL, consisting of the text "NRQL" in a yellow, monospace-style font, followed by a yellow greater-than sign ">". The entire logo is centered within a solid black rectangular background.

NRQL>

NRQLを直接書く

- 自分でクエリを書いて、見たい情報をチャートに表現
- 柔軟なデータ分析が可能

```
Account Demotron V2 Basic  
Switching to basic mode will erase any changes you make here.  
SELECT average(duration) FROM Transaction WHERE appName = 'Plan Service' TIMESERIES FACET `name` LIMIT 10 SINCE 1800 seconds ago EXTRAPOLATE  
My recent queries Clear Run
```

NRQL構文

```
SELECT function(attribute) [AS 'label'][, ...]  
FROM event  
[WHERE attribute [comparison] [AND|OR ...]][AS 'label'][, ...]  
[FACET attribute | function(attribute)] [LIMIT number]  
[SINCE time] [UNTIL time]  
[WITH TIMEZONE timezone]  
[COMPARE WITH time]  
[TIMESERIES time]
```

参考: <https://docs.newrelic.com/docs/query-data/nrql-new-relic-query-language/getting-started/introduction-nrql>

NRQL使いこなしTips①

- この句だけは覚えましょう！
 - **FROM イベント名** : どの名前のイベントから情報を収集するか
 - **SELECT 属性** : どの属性の情報を収集するか
 - ※数値データは集計関数が見える (次のページ参照)
 - ※単純にイベント数をカウントしたい場合は `count(*)` と指定
 - **WHERE 条件** : 条件に合致したデータだけを抽出
 - ※属性 [`=`, `LIKE`, `RLIKE`, `IN`] 値 のような書式になる
 - **FACET 属性** : 指定した属性に沿ってデータをグルーピング
 - ※デフォルトでは 10グループまで表示される、変更したい場合は `LIMIT [数値]` で指定
 - **SINCE 時間 AGO (TIMESERIES [時間])** : 検索するデータの時間範囲、および時系列データにするかどうかの指定とそのデータ粒度

NRQL使いこなしTips②

- 数値データの集計関数を覚えましょう！

平均値: **average(属性)**

パーセンタイル: **percentile(属性, 何パーセンタイルにするかの数値)**

最大値、最小値: **max(属性), min(属性)**

合計: **sum(属性)**

最新値: **latest(属性)**

ヒストグラム: **histogram(属性, データ最大値, スロット数)**

ある条件に合致するものの割合: **percentage(関数(属性), WHERE 条件)**

属性のバリエーション数のカウント: **uniquecount(属性)**

NRQL使いこなしTips③

- WHERE句について
 - 部分一致や正規表現が使えます
 - **WHERE 属性 LIKE '%nru%'** (部分一致)
 - **WHERE 属性 RLIKE 'nru..'** (正規表現)
 - AND/OR条件が使えます
 - ただし、ORを羅列する場合は**WHERE 属性 IN (値1, 値2, ...)**のほうが推奨の書き方です
 - 数値データの場合は不等号が使えます
 - **WHERE duration > 1** など

ハンズオン(2) 分析手法の習得

このハンズオンのセクションでは、以下の点を学習します。

- ダッシュボードの大枠を作る
- Metrics & eventsを用いて、チャートをダッシュボードに追加する
- NRQLを用いてチャートを編集する
- クエリビルダーでチャートを作成する



new relic

15:50 - 16:10 (20min)

ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

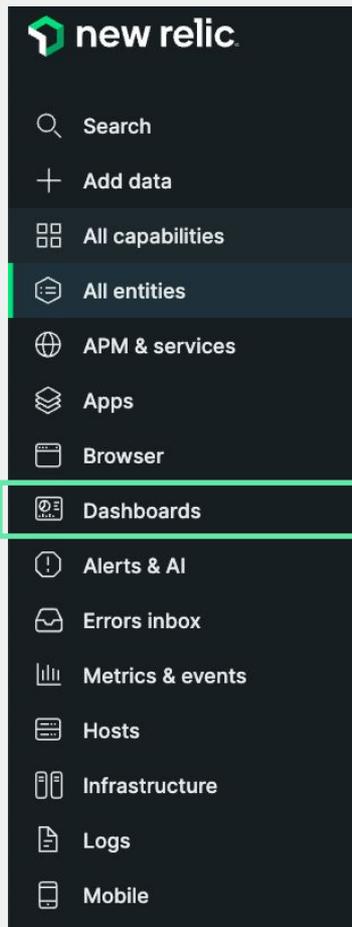
- NRQLの利用方法を取得する

ダッシュボード作成を通してNRQLの
利用方法を身につける

New Relic にログインし、メニューからDashboardsをクリックする

- Create a dashboardボタンをクリックする
- 右側より画面が出てくるので、Create a new dashboardを選択する

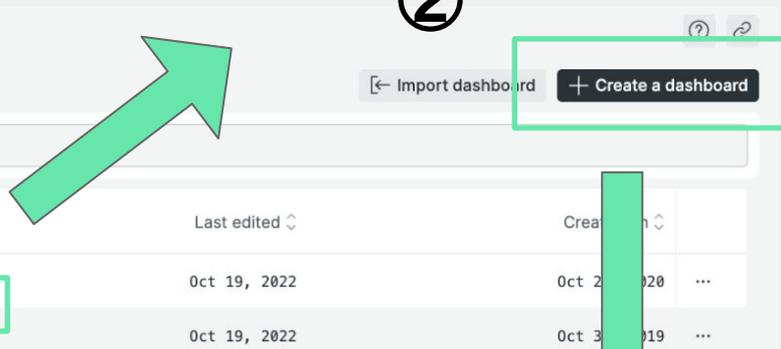
①



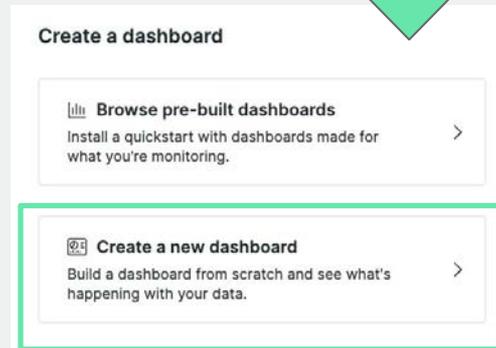
ハンズオン

準備

②



③



ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

- NRQLの利用方法を取得する

ダッシュボード作成を通してNRQLの利用方法を身につける

以下の点に注意して、ダッシュボードの作成を進めます

- Dashboard name
 - 受講される方々の間で重複しない様にする
 - 設定例: “ご自身の会社名_お名前”
- Permissions
 - ダッシュボードの権限を設定する
 - Edit -everyone を選択

Createボタンをクリックする

Create a dashboard

Dashboard name

test株式会社_khara

Permissions ?

Edit - everyone in account ▾

Back Create

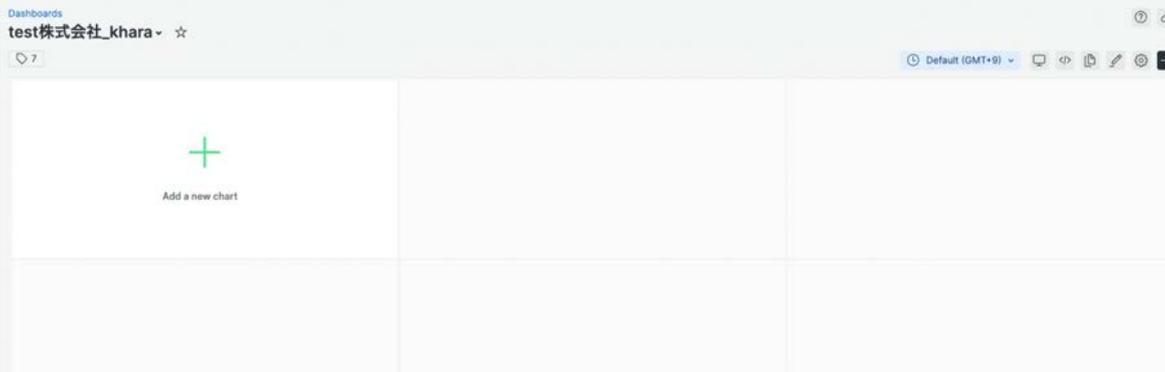
ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

- NRQLの利用方法を取得する

ダッシュボード作成を通してNRQLの
利用方法を身につける

右の様な画面が表示されれば、準備
が完了



この画面が出てきたら、準備完了です。

もし、他の画面に遷移してしまった場合、メニューより Dashboards をクリックし、一覧から作成したダッシュボード名を選択してください。

ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

- NRQLの利用方法を取得する

Metrics & eventsで解析した結果を
ダッシュボードに追加する

- Metrics & events 上で、Events
に変更する
- Event typeからTransactionを
選択する
- Plotからcount(*)を選択する

①

new relic

Metrics & events

Metrics Events Filter to All entities

Event type

Search...

New Relic events

AjaxRequest

BrowserInteraction

InfrastructureEvent

Log

Log_VPC_Flows_AWS

NetworkSample

PageView

PageViewTiming

ProcessSample

Select

count(*)

NRQL SE

Transa

1.2 k

135 k

13 k

1.05 k

1 k

950

900

850

800

750

700

650

②

Event type

Search...

New Relic events

AjaxRequest

BrowserInteraction

ContainerSample

NetworkSample

PageView

PageViewTiming

ProcessSample

StorageSample

SyntheticCheck

SyntheticRequest

SystemSample

Transaction

③

Plot

Search...

count(*)

build Average

customer Average

databaseCallCount Average

databaseDuration Average

duration Average

error Average

ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

- NRQLの利用方法を取得する

Metrics & eventsで解析した結果を
ダッシュボードに追加する

- Dimensionsを開き、request.uriをクリックする
- 右側のエリアのグラフが変わり、request.uriの値が表示される
- /ec-cube/index.php をクリックし、グラフの表示が変わるのを確認する

The image shows a New Relic interface. On the left, the 'Dimensions' panel is open, displaying a list of dimensions. The 'request.uri' dimension is highlighted with a red box and has a value of 46. A red arrow points from this box to the right. On the right, the 'Transaction' dashboard is shown. The query bar contains the NRQL: `NRQL SELECT count(*) FROM Transaction FACET 'request.uri' SINCE 30 MINUTES AGO TIMESERIES`. Below the query, a line graph shows the count of transactions over time for various request URIs. The legend at the bottom of the graph lists several URIs, with three of them highlighted in red boxes: `/ec-cube/index.php/`, `/ec-cube/index.php/cart`, and `/ec-cube/index.php/shopping/complete`. A red circle with the number '2' is placed above the graph. Below the graph, a red circle with the number '1' is placed above a list of URIs. A red circle with the number '3' is placed above a callout box containing the same three URIs. A second callout box below it shows the same three URIs with red 'X' marks over the last two, indicating they are not selected.

②

①

③

- /ec-cube/index.php/
- /ec-cube/index.php/cart
- /ec-cube/index.php/shopping/complete

- /ec-cube/index.php/
- ✗ /ec-cube/index.php/cart
- ✗ /ec-cube/index.php/shopping/complete

ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

- NRQLの利用方法を取得する

Metrics & eventsで解析した結果を
ダッシュボードに追加する

- Dimensionsを開き、nameをクリックする
- 右側のエリアのグラフが変化することを確認する
- 【重要】NRQLが表示されていることを確認する

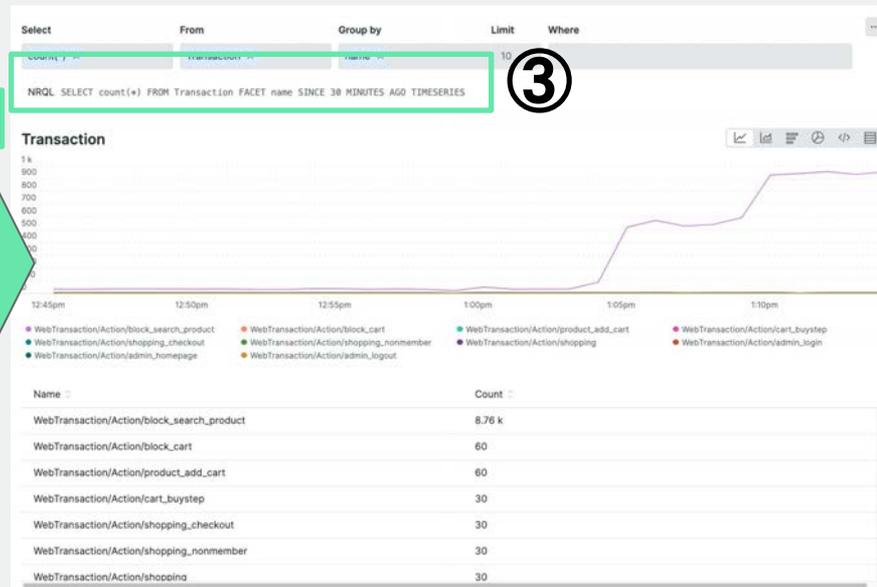
①

Dimensions

Search...

appid	445000097
appName	EC-site
entity.guid	MjUxMTY3MxMBUE18QVB...
entityGuid	MjUxMTY3MxMBUE18QVB...
error	2
errorMessage	Allowed memory size of 13...
errorType	E_ERROR
guid	18442
host	ip-172-31-26-144.ap-north...
httpResponseCode	4
name	11
realAgentId	445000000
request.headers.accept	6
request.headers.contentType...	2
request.headers.host	ec2-3-113-215-132.ap-nor...
request.method	

②



③

ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

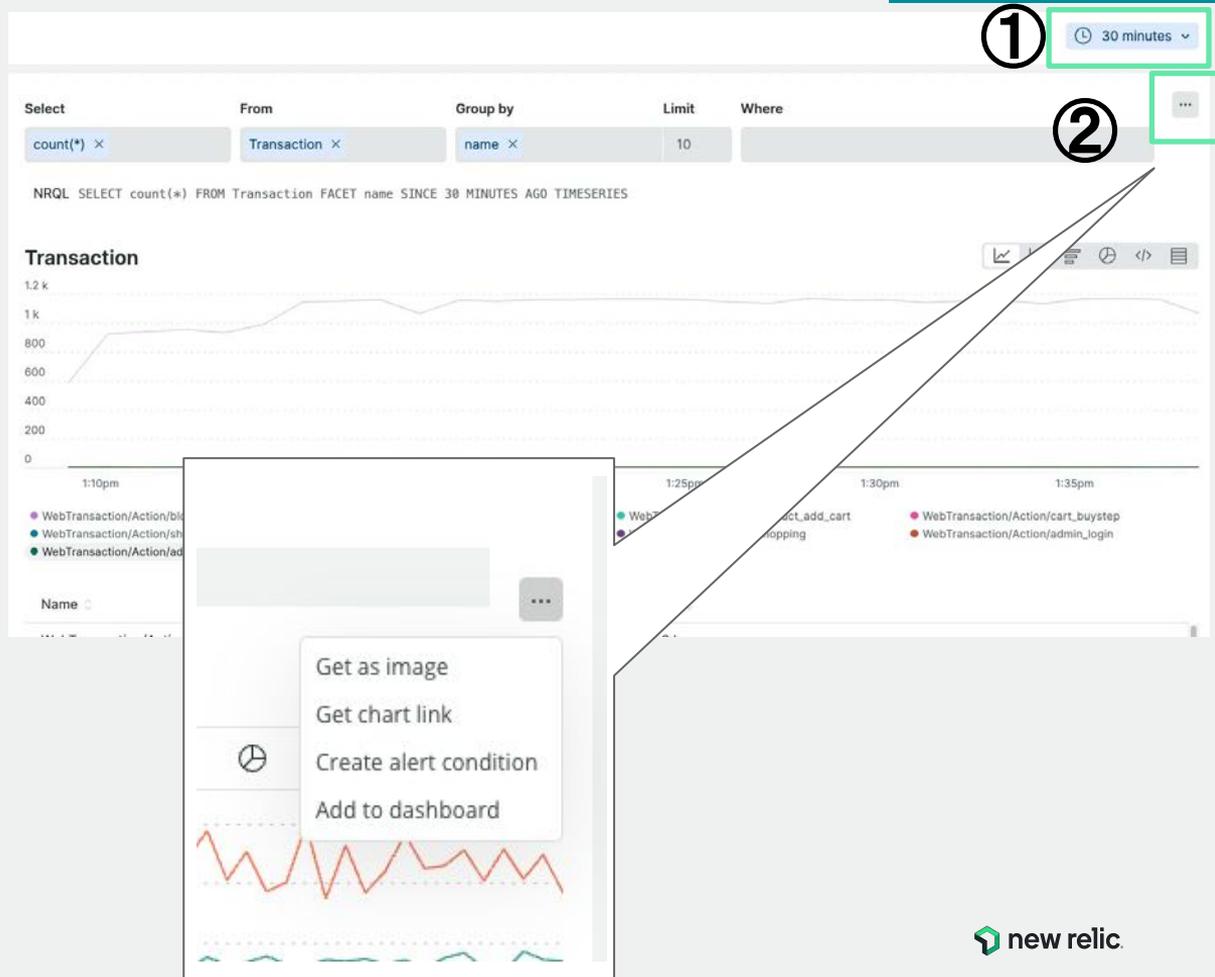
- NRQLの利用方法を取得する

Metrics & eventsで解析した結果を
ダッシュボードに追加する

- プルダウンより3 hoursに変更する
- [...]からAdd to dashboardを選択する

[次のスライドに進みます]

ハンズオン



ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

- NRQLの利用方法を取得する

Metrics & eventsで解析した結果を
ダッシュボードに追加する

- 設定画面が右側からスライドして表示されるので、任意のタイトルを設定する
- リストより、準備の段階で作成したダッシュボードを選択する
- Copy to dashboardをクリックする

① Copy to a dashboard
Select a dashboard where you would like to add the widget.

widget title
試験用ウィジェット

② Select an existing dashboard
We excluded dashboards you don't have permission to edit.

Search by name, account or creator

Dashboard Name	Account
NRU#ホワイトボードサンプル	NewReli...
NRU#レポートサンプル	NewReli...
test株式会社_khara / test株式会社...	NewReli...

③ Cancel Copy to dashboard

Or create a new dashboard

Added to your dashboard

[View this on test株式会社_khara / test株式会社_khara](#)

Dismiss

この表示が出れば、ダッシュボードへ追加されています。
追加されたダッシュボードを参照してください。

ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

- NRQLの利用方法を取得する

ダッシュボードからNRQLを確認し、
編集する

チャートに設定されたNRQLを確認する

- 追加したチャートの[...]からView queryを選択する
- 画面下からNRQLがスライドして表示されることを確認す^①



①

Expand
Get as image
Get chart link
View query
Create alert condition
Copy
Edit
Duplicate
Delete

Account: 2511671 - NewRelicUniversity-Japan

```
SELECT count(*) FROM Transaction FACET name SINCE 3 HOURS AGO TIMESERIES
```

ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

- NRQLの利用方法を取得する

チャートに設定されたNRQLを変更する

- 表示されているNRQLの3 HOURSを12 HOURSに変更し、リターンをクリック
- NRQLに併せて、チャートが表示されることを確認する
- Add to dashboardとOpen in Query Builderボタンが表示されていることを確認する

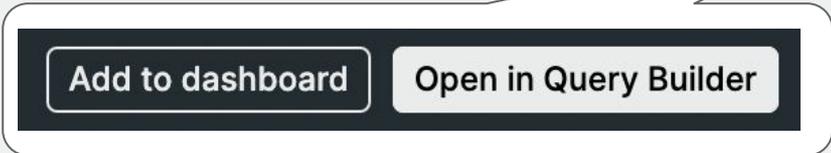
①

```
Account: 2511671 - NewRelicUniversity-Japan v
SELECT count(*) FROM Transaction FACET name SINCE 3 hours AGO TIMESERIES
```

②



③



ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

- NRQLの利用方法を取得する

クエリビルダー上で、NRQLを編集する

- Query builder からクエリクエリビルダーを開く
- 右のNRQLをクエリビルダーに入力する
- 右下にあるRunボタンをクリックし、チャートが描画されることを確認する

①

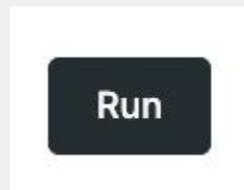
Query builder



②

```
SELECT count(*) FROM Transaction FACET name SINCE 3 HOURS  
AGO TIMESERIES
```

③



ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

- NRQLの利用方法を取得する

クエリビルダー上でNRQLを直接編集し、解析結果をダッシュボードに追加する

クエリビルダー上で、NRQLを編集する

- WHERE句を追加する
- FACET句を変更する
- 表示時間を変更する
- TIMESERIESを削除する

① WHERE name in ('WebTransaction/Action/block_search_product', 'WebTransaction/Action/shopping')

② FACET name

③ SINCE 1 HOUR AGO

④ TIMESERIES

SELECT count(*) FROM Transaction FACET name SINCE 1 hour AGO WHERE name in ('WebTransaction/Action/block_search_product', 'WebTransaction/Action/shopping')

The screenshot shows the New Relic Query Builder interface. The NRQL query is: `SELECT count(*) FROM Transaction FACET name SINCE 1 hours ago Where name in ('WebTransaction/Action/block_search_product', 'WebTransaction/Action/shopping')`. The results table shows two rows: `WebTransaction/Action/block_search_product` with a count of 42.1k, and `WebTransaction/Action/shopping` with a count of 60. The interface also includes a 'Basic information' section with fields for 'Chart name' and 'Chart type' (set to 'Table').

Name	Count
WebTransaction/Action/block_search_product	42.1k
WebTransaction/Action/shopping	60

ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

- NRQLの利用方法を取得する

クエリビルダー上でNRQLを直接編集し、解析結果をダッシュボードに追加する

作成したチャートをダッシュボードに追加する

- チャート画面の右下にある Add to Dashboard から、任意の名前をつけてチャートを登録する
- ダッシュボードを確認する

①

Query builder

```
SELECT count(*) FROM Transaction FACET name SINCE 1 hours ago Where name in ('WebTransaction/Action/block_search_product', 'WebTransaction/Action/shopping')
```

Name	Count
WebTransaction/Action/block_search_product	421k
WebTransaction/Action/shopping	60

Basic Information

Chart name: Enter a chart name

Chart type: Table

Other groups (0)

Data Format (0)

Dashboard Options (0)

Add to Dashboard

②



Dashboards

test株式会社_khara ☆

Default (GMT+9)

試験用ウィジェット

クエリビルダーより追加したチャート

Name	Count
WebTransaction/Action/block_search_product	39.7 k
WebTransaction/Action/shopping	60

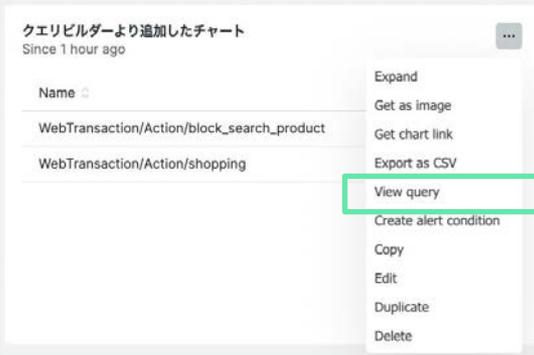
ハンズオン(2) 分析手法の習得

目的:

- NRQLの利用方法を取得する

作成したチャートをダッシュボードに追加する

- 追加したチャートから View queryを選択し、SELECT句を変更する
 - 応答時間の平均と90パーセンタイルを求めるように変更する
- 時系列データとして表示する



- 応答時間は、duration属性を用いる
- 平均は、average()関数を用いる
- 90パーセンタイルは、percentile(属性名,パーセンタイル数)関数を用いる



```
SELECT average(duration), percentile(duration,90) FROM Transaction
FACET name SINCE 1 hour AGO WHERE name in
('WebTransaction/Action/block_search_product','WebTransaction/Action/shopping')
```



```
SELECT average(duration), percentile(duration,90) FROM Transaction
FACET name SINCE 1 hour AGO WHERE name in
('WebTransaction/Action/block_search_product','WebTransaction/Action/shopping') TIMESERIES
```

Run

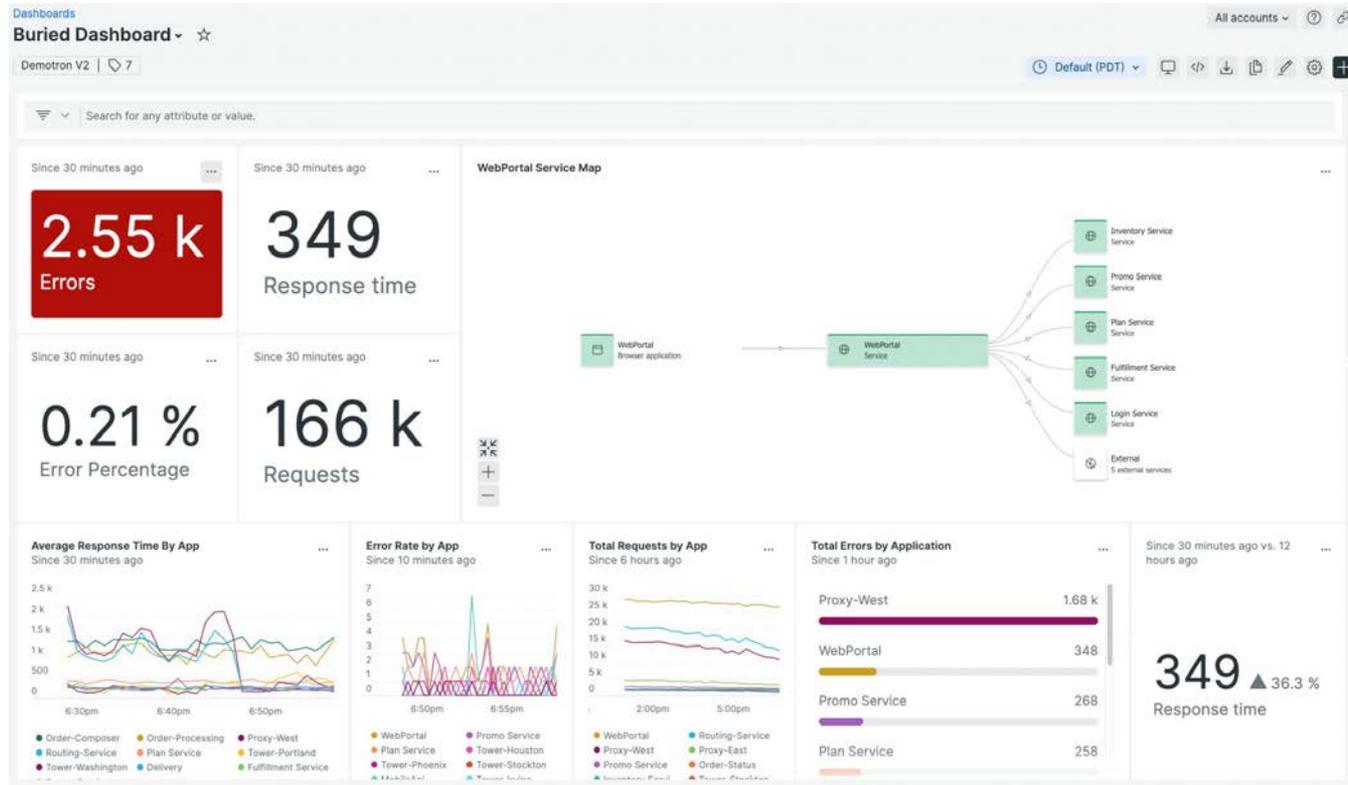
Run

STEP3

ダッシュ
ボードの
作成

New Relic ダッシュボード

New Relic ダッシュボード



ダッシュボード活用シーン

- みんなが見えるようにずっとモニタに映しておく
(ご紹介したウェザーニューズ社様の事例)
- キャンペーン中のリアルタイムな状況把握のために使う
- カスタマーサポートが問い合わせに応じて状況確認のために使う
- サービスに関わるチーム間ミーティングで共通認識を得るために使う
- 定期報告書代わりに使う

など

ダッシュボードが得意とすること

- **(データの選択と集約)**
複数アプリケーションやアプリケーションとインフラのメトリックの相関関係など、様々なソースからのデータを一つの画面で把握したい場合
- **(データの加工)**
チームで定めたKPIに対する実測値を把握したい場合
- **(データのビジュアライズ)**
集めたデータを目で見てわかりやすい形式で表示したい場合

データのビジュアライズ

- 加工したデータを様々なチャートタイプで表示

Since 30 minutes ago

Share ▾

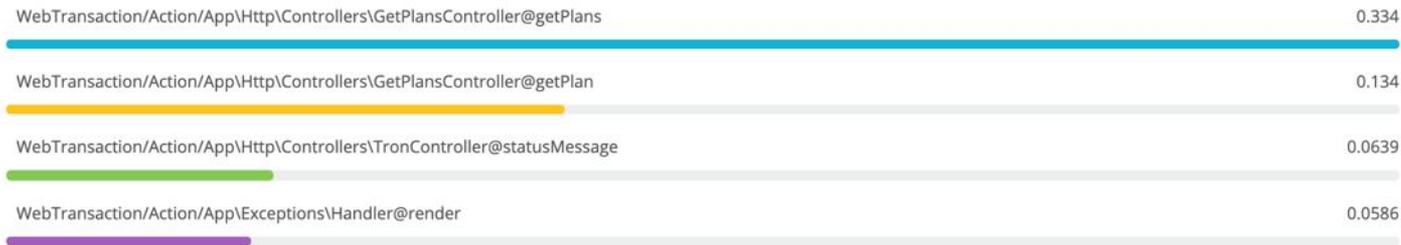


CHART NAME

Enter a chart name

Chart type Bar ▾

JSON

Line

Area

Bar

Bullet

Billboard

Table

Pie

Histogram

Heatmap

Funnel

ダッシュボードの便利機能(1/2)

- 表示系

Note機能

任意の文字や画像をダッシュボードに埋め込む



11月システム運用連絡事項

ビジネスイベント

展示会 延期

メディア

取材放送 X日18時37分頃～

セール

イベントセール 17日～22日

メンテナンス

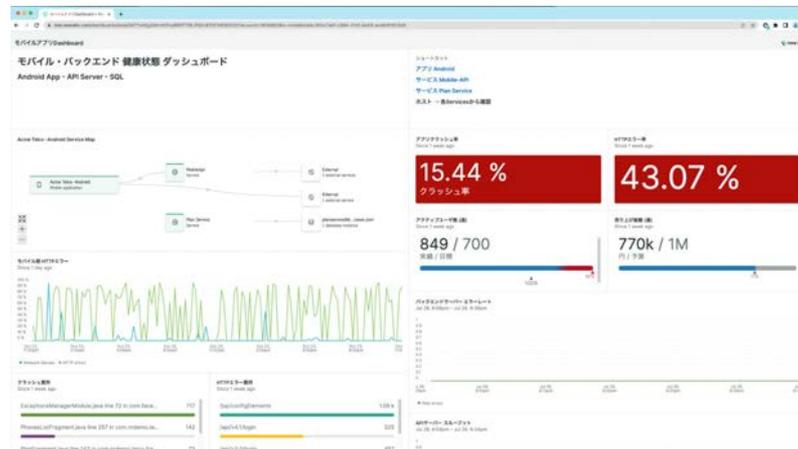
24日25時～25日5時まで システムB停止メンテナンス

店舗サイト
管理画面



TVモード

全画面表示にする
(オフィスのディスプレイに表示するなど)

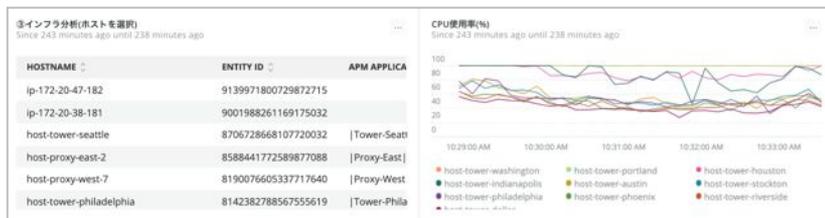


ダッシュボードの便利機能(2/2)

- 分析系

フィルタ機能

あるチャートで選んだ要素
に基づいて他のチャートの
情報が絞り込まれる



時間指定

任意の時間を指定する
(チャートからドラッグで指定すること
も可能)

Default

Last 30 mins

Last 60 mins

Last 3 hrs

Last 6 hrs

Last 12 hrs

Last 24 hrs

Last 3 days

Last 7 days

Custom >

Custom Reset to now

Start date Start time - Jun 18, 2020 02:34 pm

Asia/Tokyo Cancel Apply

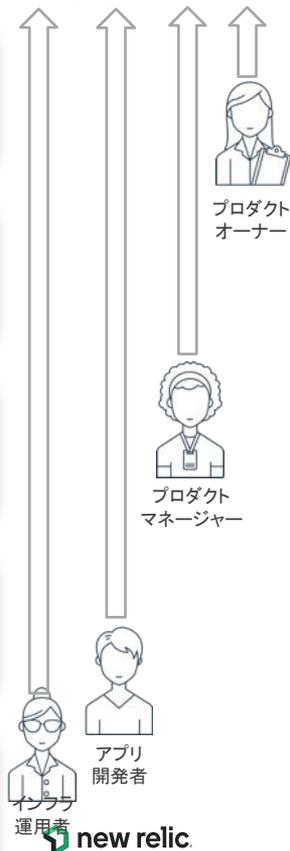
Recent

You don't have any history yet :-)

New Relic のObservability 成熟モデル

成熟度	特徴	KPI
4 データドリブン	<ul style="list-style-type: none"> データを基にした経営判断 マーケットへの素早い対応 CSAT/Net Promoterスコアの改善 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客満足度 経営計画や経営判断と紐付いたSLOの活用 Time-To-Market (# of new products/features)
3 予測的	<ul style="list-style-type: none"> オブザーバビリティを用いた運用 顧客体験の改善 丁度良いスケーリング 	<ul style="list-style-type: none"> % of 重大な障害の削減 % of エラーバジェットの利用数 % of SLOアラートの数 % of ビジネス指標のトラッキング数
2 積極的	<ul style="list-style-type: none"> MTTDの改善 サービスレベル改善のトラッキング デジタル顧客体験の改善施策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 平均MTTD % of SLOが定義されたサービス数 % of クリティカル・ケイパビリティの策定(DCX)
1 受動的	<ul style="list-style-type: none"> MTTRの改善 アプリケーションパフォーマンスの把握 顧客に影響のある事象への対応の改善 	<ul style="list-style-type: none"> 平均MTTR % of パフォーマンス低下事象の発生 % of 可用性低下事象の発生
0 Getting Started	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンスデータの収集 計測の展開計画の策定 サービスレベルの検討 	<ul style="list-style-type: none"> % of New Relicの導入率 テレメトリーデータの量

関わるロール



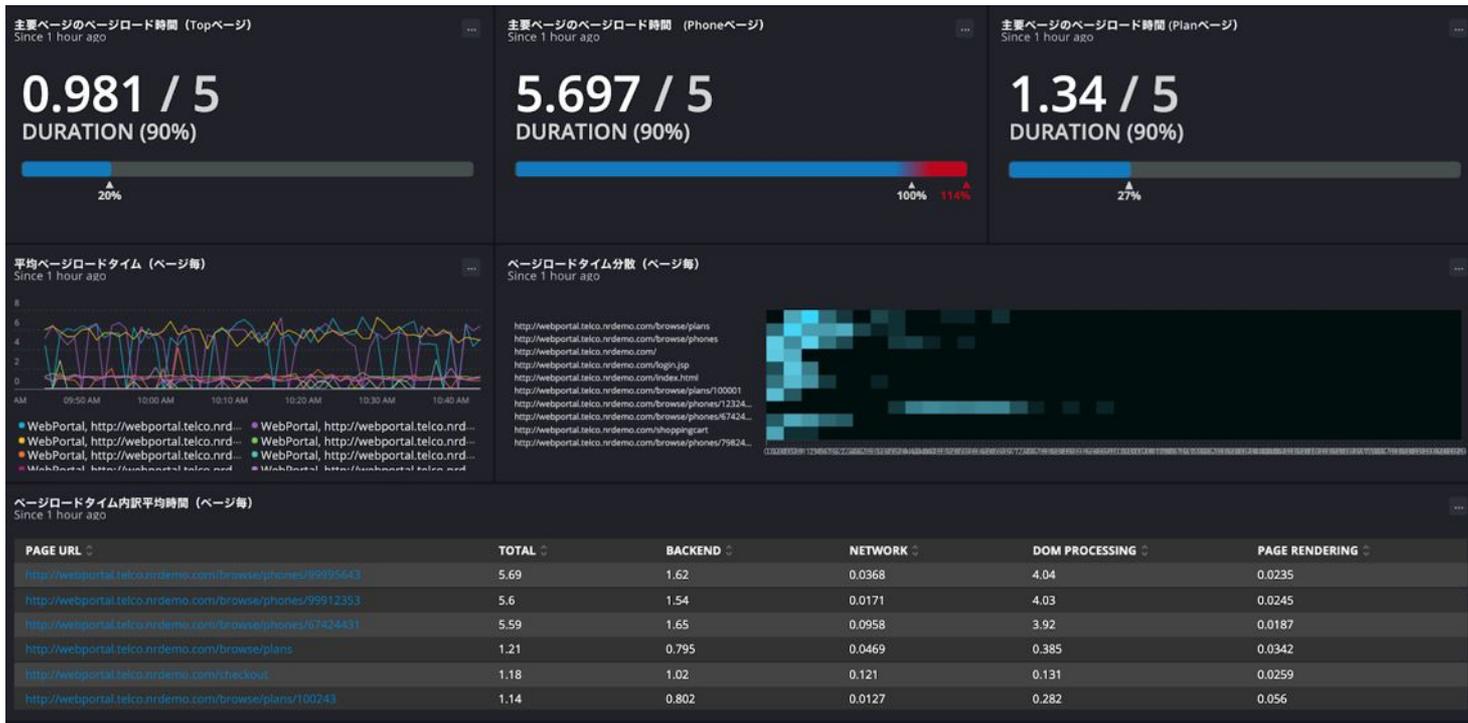
目的に応じたダッシュボード

例1: サーバー稼働状況



目的に応じたダッシュボード

例2: ユーザー体験のリアルタイムモニタリング



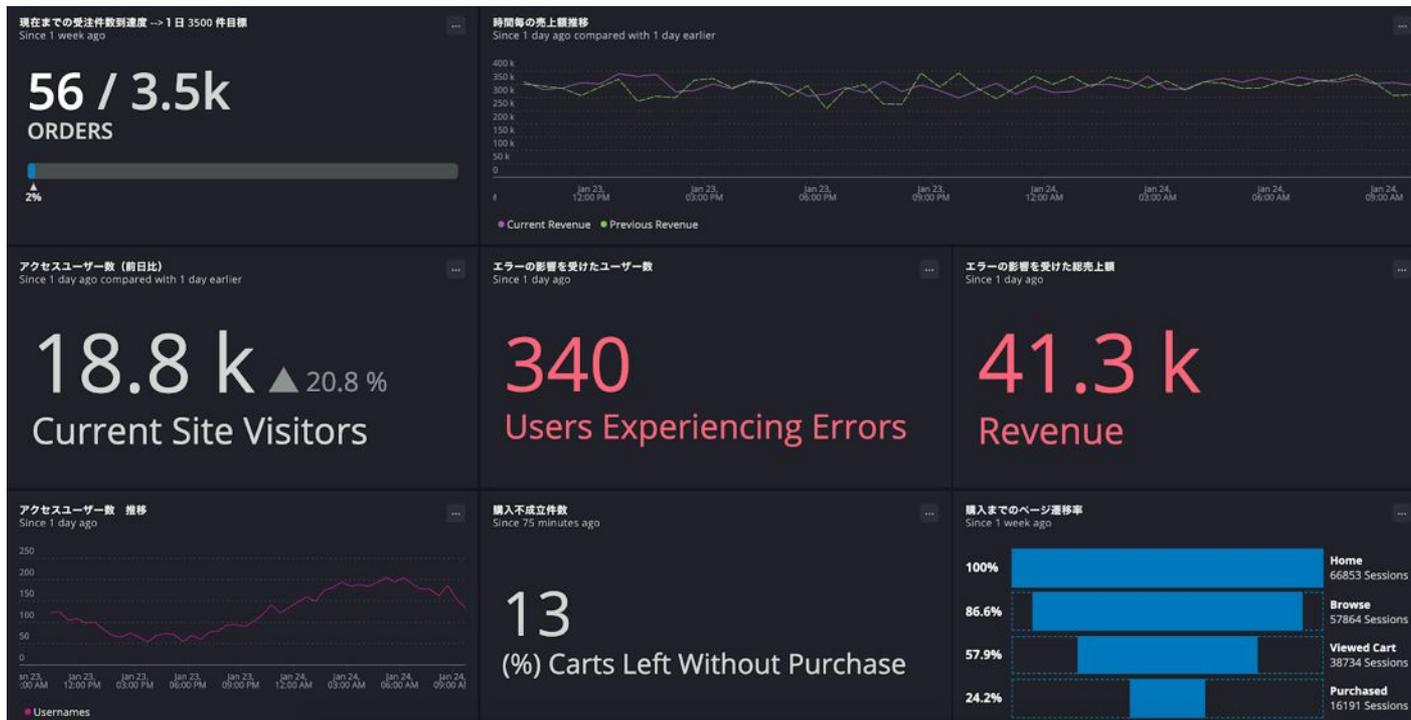
目的に応じたダッシュボード

例3: ECサイト購買分析



目的に応じたダッシュボード

例4: 売上データと連動したビジネスダッシュボード



さらに高度なビジュアライズも

- Reactを使ってリッチなダッシュボードを自分でカスタマイズすることもできます
- 一部のダッシュボードはオープンソースとして公開しており、自由に利用できます
- <https://opensource.newrelic.com/nerdpacks/>

環境をセッティングして開発

```
Quick start

1. Get your API key
   Select or create an API key
   [Dropdown menu]

2. Install the NR1 CLI
   Mac Linux Windows
   Download installer

3. Run this command to ensure everything is up and running
   nr1 --version

4. Save your credentials
   nr1 profiles:add --name [account-slug] --api-key [api-key] --region [us/eu]

5. Create your package
   nr1 create --type nerdpack --name my-awesome-nerdpack

6. Start developing
   cd my-awesome-nerdpack && nr1 nerdpack:serve
```

オリジナルのダッシュボードを作成可能



ハンズオン(3) ダッシュボードの作成

このハンズオンのセクションでは、以下の点を学習します。

- S3ダッシュボードのチャートを利用する
- S3のチャートをカスタマイズする
- NOTE機能を利用する
- チャートのサイズや配置を変更する
- **Option!!** NRQLを用いてチャートを作成する



new relic®

16:15 - 16:35 (20min)

ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

目的:

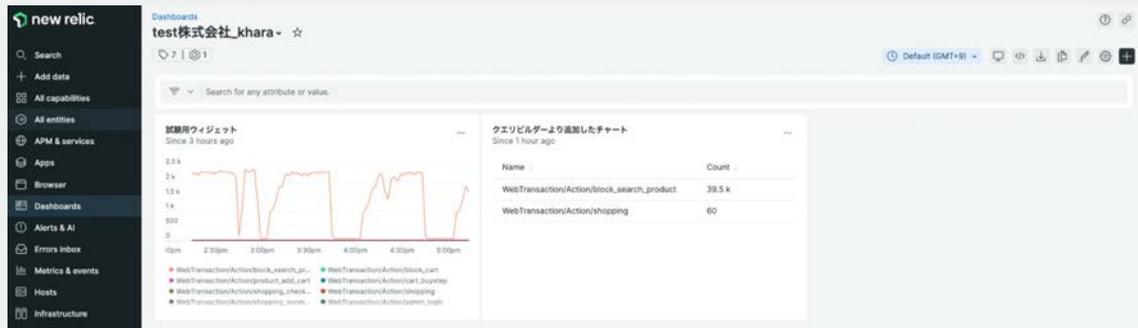
- ダッシュボードを作成する

既存のUIを用いてダッシュボードをカスタマイズする

S3ダッシュボードを用いて、ダッシュボードをカスタマイズする

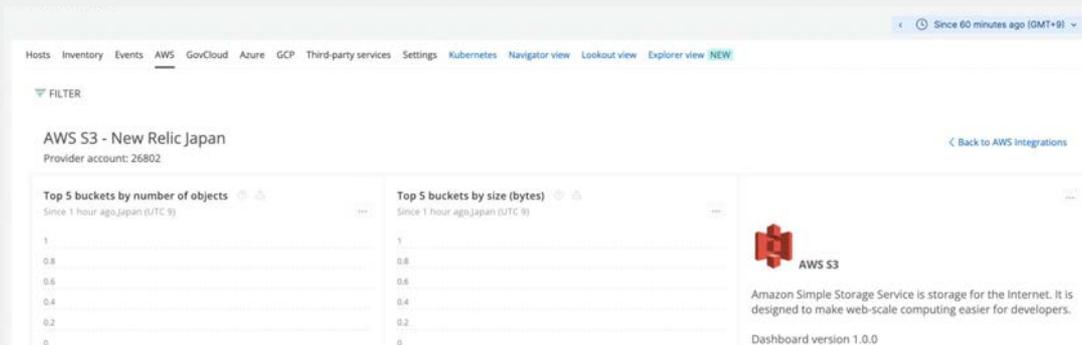
- ハンズオン(2)で作成したダッシュボードを開く
- 別のタブで、S3ダッシュボードを開く

①



Infrastructure → AWS → S3 dashboard

②



ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

目的:

- ダッシュボードを作成する

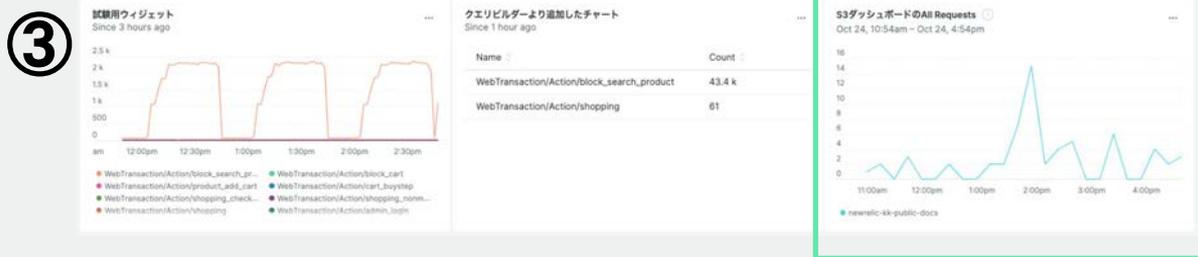
既存のUIを用いてダッシュボードをカスタマイズする

S3ダッシュボードを用いて、ダッシュボードをカスタマイズする

- S3ダッシュボードからAll requestsというチャートをクエリビルダーにコピーする
- クエリビルダーが開いたら、右下のAdd to Dashboardボタンをクリックする
- 任意名で、ダッシュボードに保存する



クエリビルダー上での変更は何も必要ありません



ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

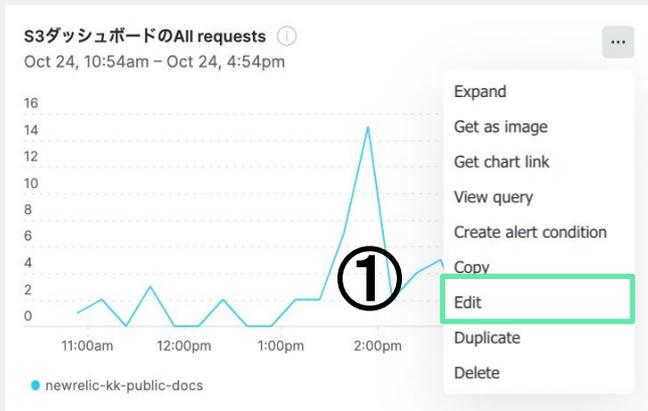
目的:

- ダッシュボードを作成する

既存のUIを用いてダッシュボードをカスタマイズする

S3ダッシュボードを用いて、ダッシュボードをカスタマイズする

- 追加したチャートでEditを選択し、直接クエリビルダーを起動する
- データ格納元のEvent名を確認する



②

FromQL-style

```
SELECT sum(`aws.s3.AllRequests`) FROM Metric WHERE newrelic.cloudIntegrations.providerAccountId = '26802' SINCE 6 hours ago TIMESERIES auto facet entity .name
```

Add another query Your recent queries Create alert Clear Run

ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

目的:

- ダッシュボードを作成する

既存のUIを用いてダッシュボードをカスタマイズする

S3ダッシュボードを用いて、ダッシュボードをカスタマイズする

- Requestの対象をallからgetに絞る
(属性名:aws.s3.GetRequests)
- データ参照時間を1日に変更する
- Save as...ボタンを押し、ダッシュボードに保存します

```
SELECT sum(`aws.s3.AllRequests`) FROM Metric WHERE newrelic.cloudIntegrations.providerAccountId = '26802' SINCE 6 hours ago TIMESERIES auto facet entity .name
```

① SELECT sum(`aws.s3.GetRequests`)

② since 1 day ago

③



ダッシュボードを
確認してみましょう

ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

目的:

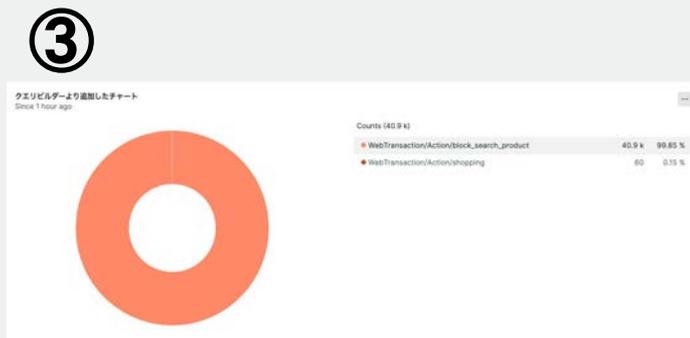
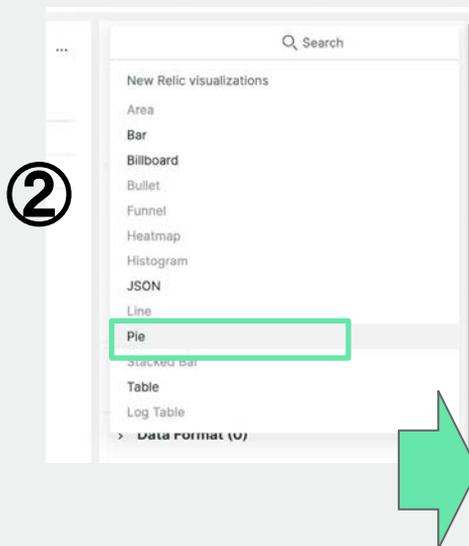
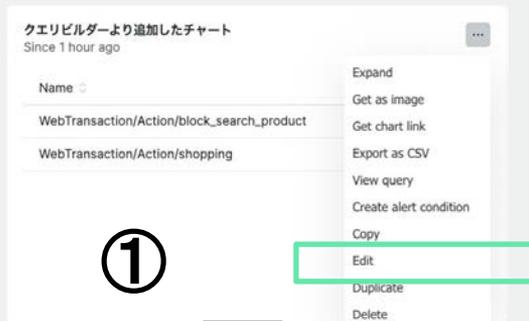
- ダッシュボードを作成する

既存のUIを用いてダッシュボードをカスタマイズする

作成したチャートの表示スタイルを変更する

- [...]からEditを選択し、クエリビルダーを起動する
- Chart typeのプルダウンメニューからPieを選択する
- ダッシュボード上での表示が変わったことを確認する

[次のスライドに続きます]



ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

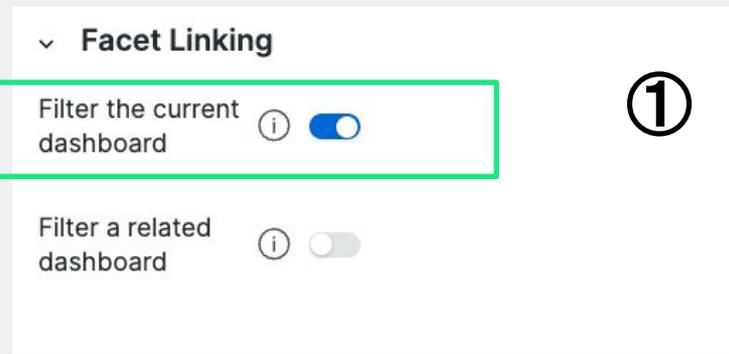
目的:

- ダッシュボードを作成する

既存のUIを用いてダッシュボードをカスタマイズする

作成したチャートの表示スタイルを変更する

- クエリビルダー上の Filter the current dashboard のトグルスイッチを右に入れる
- Save を押し、変更を保存する
- ダッシュボード上の変化を確認する



ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

目的:

- ダッシュボードを作成する

既存のUIを用いてダッシュボードをカスタマイズする

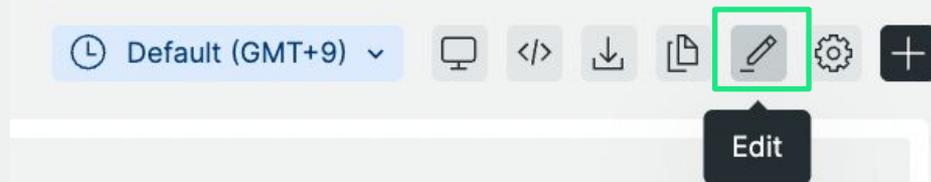
ダッシュボードにテキストや画像など
チャート以外の情報を追加する

- ダッシュボードのEditボタンをクリックする
- Add widgetをクリックする
- Add text, Images, or linksをクリックする
- 編集画面が右からスライドして表示されることを確認する

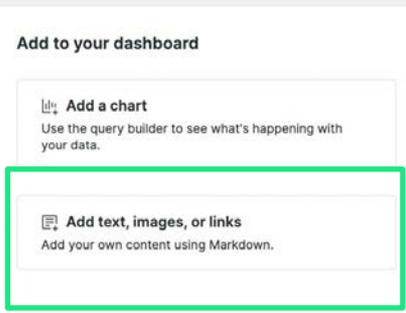
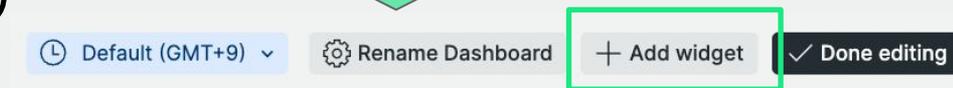
[次のスライドに続きます]

ハンズオン

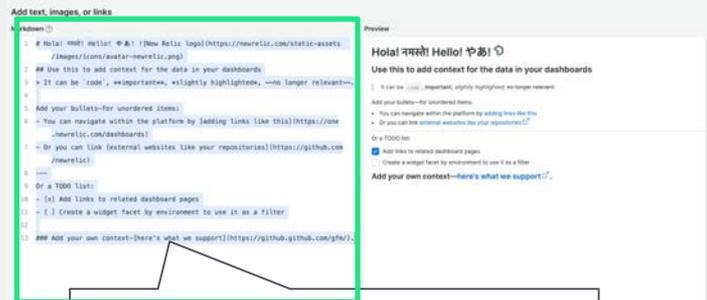
①



②



③



④

任意のテキストを入力し、保存します。

ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

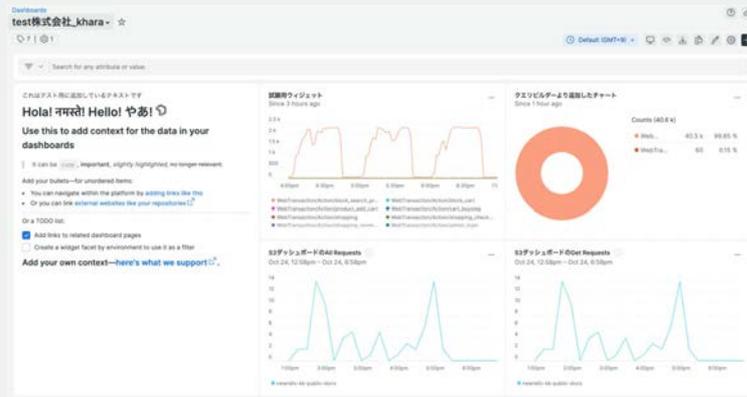
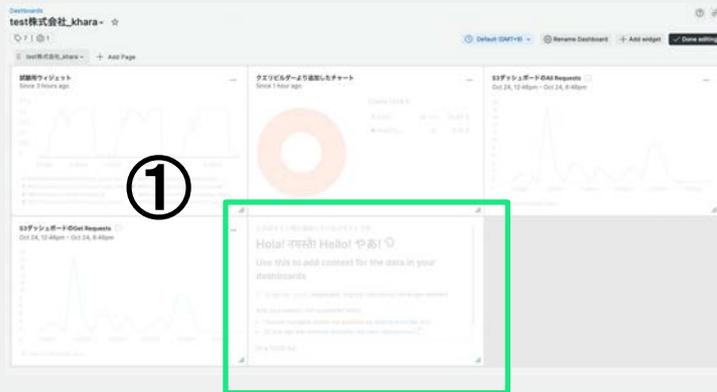
目的:

- ダッシュボードを作成する

既存のUIを用いてダッシュボードをカスタマイズする

ダッシュボード内の配置やサイズを変更します

- 追加したテキストを確認する
- チャートをドラッグすることで、配置を変更する
- 同様に、各チャートの右下をドラッグしてサイズを変更する
- Done editingを押し、変更を保存する



ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

目的:

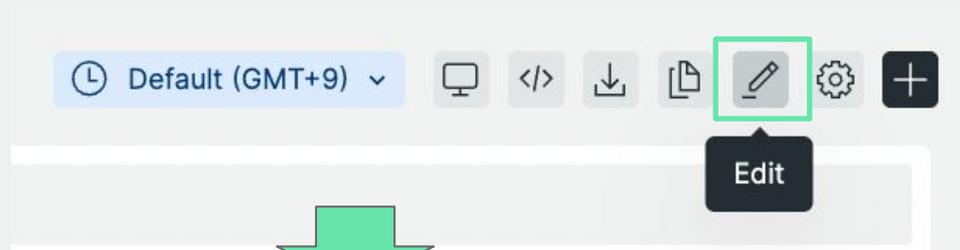
- ダッシュボードを作成する

ダッシュボードにチャートを追加する

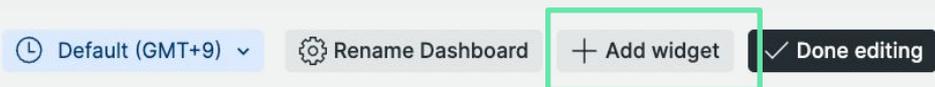
チャートの追加方法を確認する

- ダッシュボードのEditボタンをクリックする
- Add widgetをクリックする
- Add a chartをクリックする
- 右側からNRQLを指定するUIがスライドして表示されることを確認する

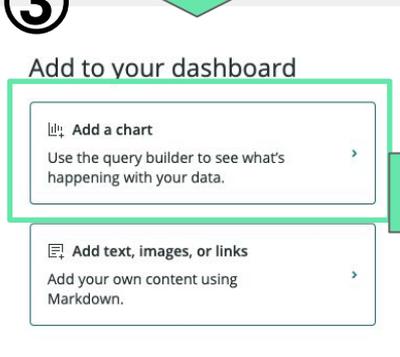
①



②



③



④



NRQLを使って詳細な解析を行える
様にしましょう

以降のスライドにて、この手順を用いて
チャートの追加を行います

ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

目的:

- 目的に沿ったダッシュボードを作成する

過去1週間の稼働率を表示し、前週と比較する

- FROM句: SyntheticCheck
- SELECT句: percentage()

クエリ例:

```
SELECT percentage(count(result), where result = 'SUCCESS') as '稼働率(週)'  
FROM SyntheticCheck SINCE 1 week ago COMPARE WITH 1 week ago
```

解説:

- 外形監視Syntheticsのチェック結果であるSyntheticCheckイベントから、SUCCESSという結果が入ってるイベントの割合を抽出しています。
- AS句を使うと、クエリ結果をダッシュボードで表示させる際に、わかりやすい表示に置き換えることができます。
- COMPARE WITH句を使ってその前の週と比較しています。

ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

目的:

- 目的に沿ったダッシュボードを作成する

URLごとのページ表示時間のヒストグラムを作成する

- FROM句: PageView
- SELECT句: histogram()

クエリ例:

```
SELECT histogram(duration,10,20) FROM PageView FACET pageUrl SINCE 30 MINUTES AGO
```

解説:

- Browserエージェントによって計測された PageView イベントから、応答時間を抽出しています。
- histogram()関数を用いて、応答時間 10秒を20個のウィンドウに分割し、それぞれにウィンドウに当てはまる応答時間をカウントしています。
- FACET句を使い、pageUrl毎にヒストグラムを作成しています。
- グラフはpageUrlを縦軸としたヒートマップで表示されます。

ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

目的:

- 目的に沿ったダッシュボードを作成する

ユーザーのページ遷移の状況を解析し、ファネルで表示する

- FROM句: PageView
- SELECT句:funnel()

クエリ例:

```
SELECT funnel(session, WHERE pageUrl LIKE  
'http://ec2-3-113-215-132.ap-northeast-1.compute.amazonaws.com/ec-cube/index.php%' AS 'ホームページ ', WHERE pageUrl LIKE  
'http://ec2-3-113-215-132.ap-northeast-1.compute.amazonaws.com/ec-cube/index.php/mypage/login' AS 'ログイン' ) FROM PageView SINCE 1 day ago
```

解説:

- Browserエージェントによって計測された PageView イベントから、セッションIDを格納しているsessionを抽出しています。
- funnel()関数を用いて、pageUrlの値を条件にして、条件に当てはまるsession数をカウントしています。

ハンズオン(3) ダッシュボード の作成

目的:

- 目的に沿ったダッシュボードを作成する

ハンズオンで実施したカスタムイベントの一覧を作成する

- FROM句: NRULab
- SELECT句: initial, comment

クエリ例:

```
SELECT initial, comment FROM NRULab since 1 day ago
```

解説:

- ハンズオンで送付したカスタムイベントの NRULab イベントから必要な情報を抽出しています。

STEP4

アラートの
作成

高度なアラート設定

アラート機能

- New Relicが取得しているデータを使ってしきい値(動的/静的)を設定し、アラートを発報することが可能

1. Categorize APM - Application metric

2. Select entities 1 entity

3. Define thresholds

When target application TomcatApp

has an average sec minutes

Condition name

Critical threshold Critical violation

[← Back to Select entities](#)

アラートの通知と確認

メールやSlack, モバイルアプリ等でアラートを受信
(下はSlackの例)

Incident #83551393 opened

Target

SystemSample query

Condition

NRQLテスト

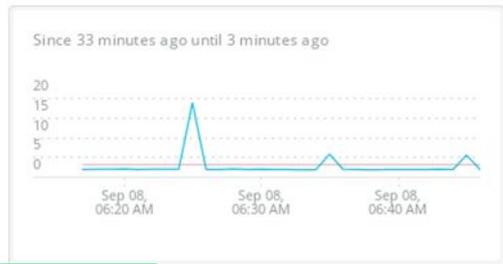
Threshold

SystemSample query result is > 3

(8 kB) ▾

Policy

Tomtest



[View Incident](#)

[NRQL Overview](#)

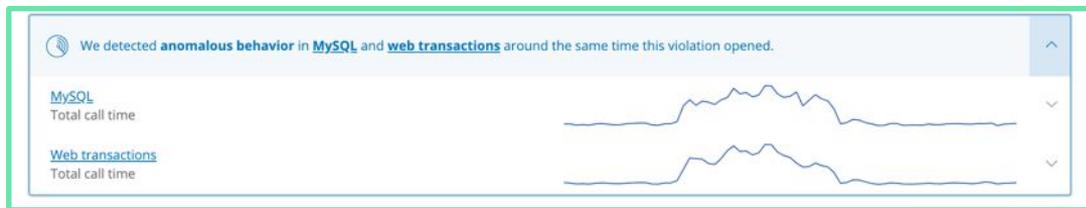
アラートへのリンク

アラートの詳細をNew Relic上で確認

Plan Service violated Check response time for web portal

3:16 am OPENED 3:31 am CLOSED 15m DURATION CRITICAL SEVERITY App metric CONDITION TYPE

同時に変化のあったメトリックを表示



Is this helpful? [Yes](#) [No](#)

[View application in service maps](#)

[Go to application overview](#)



Web response time > 600 milliseconds for at least 10 minutes
THRESHOLD

アラートのカスタマイズ

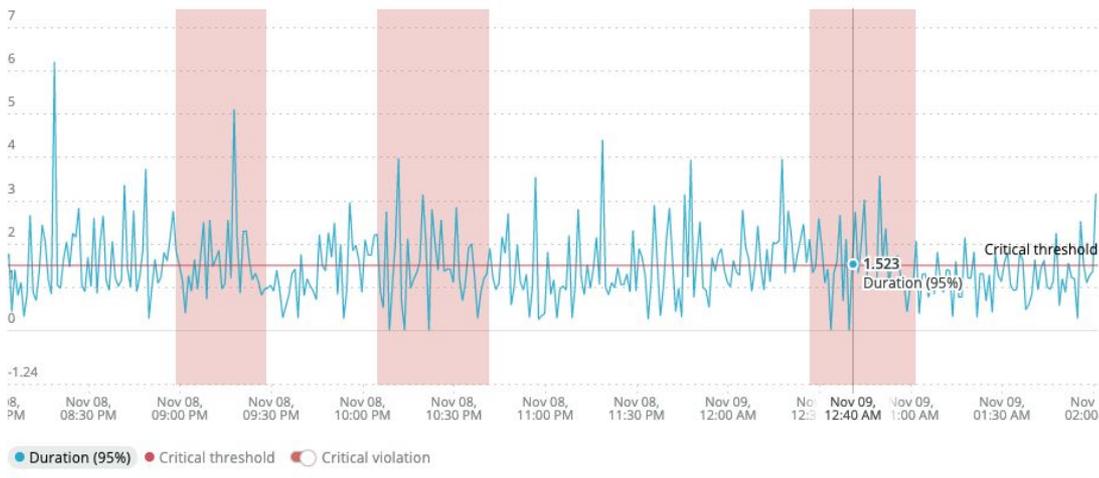
- NRQLの結果をしきい値にアラートを設定することも可能

Define your signal

Enter NRQL Query (i)

```
SELECT percentile(duration,95) FROM PageView WHERE appName = 'EC-site'
```

For help with null values, loss of signal, or other query options, see our docs.



3 critical violations

Signal loss violations and filled data gaps are currently not reflected in the chart. See our docs

- アラートの設定画面で直接 NRQL を記述します
- SELECT句, FROM句および WHERE句(オプション)のみで記述します
- UIを確認しながら、閾値の設定を行えます

ハンズオン(4) アラートの作成

このハンズオンのセクションでは、以下の点を学習します。

- アラートのためのコンディション作成



new relic®

16:40 - 16:50(10min)

ハンズオン(4) アラートの作成

目的:

- アラート設定のための手順を理解する

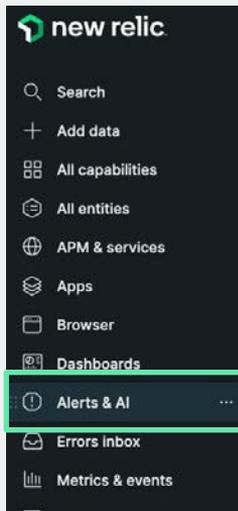
アラート設定を行うUIにアクセスする

- メニューより、Alerts & AIをクリックする
- 左ペインからAlert condition(Policies)をクリックする
- ダッシュボードハンズオン用アラートポリシーをクリックする

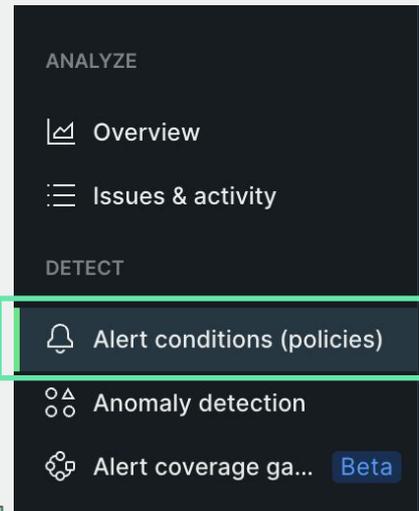
[次のスライドに続きます]

ハンズオン

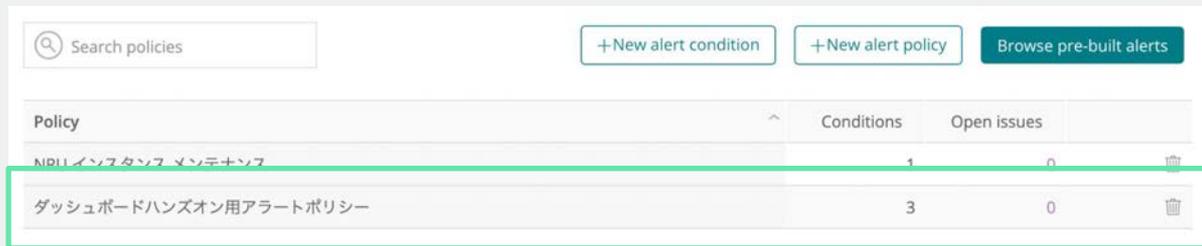
①



②



③



ハンズオン(4) アラートの作成

目的:

- アラート設定のための手順を理解する

ポリシー内にコンディションを追加します

- 画面右下のAdd a conditionをクリックする
- New condition UI上で、NRQLを選択する
- Next, define thresholdをクリックする

[次のスライドに続きます]

①

ダッシュボードハンズオン用アラートポリシー

id: 1065477

 Correlate and suppress noise Issue Creation Preference: One issue per policy Delete this policy

3 Alert conditions

Notification settings

Last modified Sep 30, '20 11:12 am by User 2616957

Search conditions

Add a condition

Last modified Mar 2, 2:23 pm by NRU-User | 0 Open Issues | View past issues | Manage

INFRASTRUCTURE METRIC CPU_alert_warning

All Entities

cpuPercent > 85.0 for at least 2 mins

Last modified Oct 26, '22 6:28 pm by NRU-User | 0 Open Issues | View past issues | Edit | Copy | Delete | On



New condition

Cancel

1. Categorize

Select a product

NRQL

APM

Browser

Mobile

Synthetics

Infrastructure

②

③

Next, define thresholds

2. Enter a NRQL query and thresholds

ハンズオン(4) アラートの作成

目的:

- アラート設定のための手順を理解する

ポリシー内にコンディションを追加します

- NRQL Queryを入力する
- 画面下部にあるNextボタンをクリックする

ハンズオン

Create an alert condition

Alert conditions compare signal behavior to thresholds you set. When the signal goes outside those thresholds, we create an incident.

Account: 2511871 - NewRelicUniversity-Japan | Policy: 1065477 - ダッシュボードハンズオン用アラートポリシー

Define your signal

Adjust to signal behavior

Define thresholds

Add details

Define your signal

Tell this alert condition which signal to watch and tune it to match the signal.

Select your signals

Build a query (selected)

Golden signal or metric

Query the data you want to monitor *

SELECT

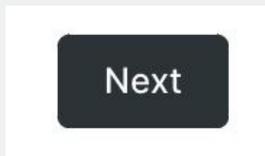
Next

①

```
SELECT percentile(duration,95) FROM PageView WHERE appName = 'EC-site'
```



②



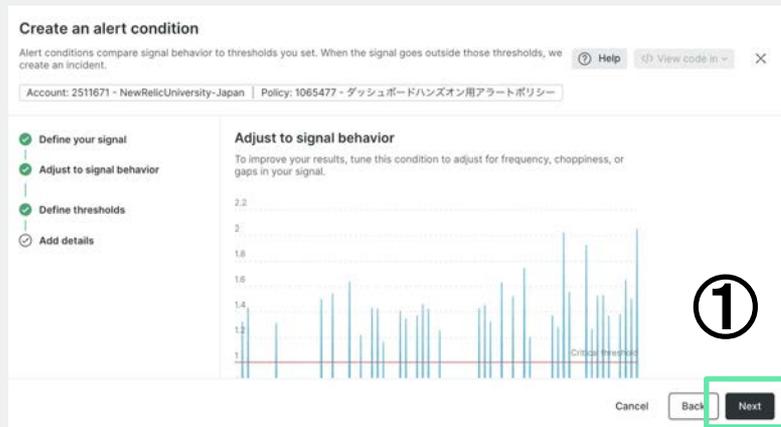
ハンズオン(4) アラートの作成

目的:

- アラート設定のための手順を理解する

ポリシー内にコンディションを追加します

- 画面下部にあるNextボタンをクリックする



Create an alert condition

Alert conditions compare signal behavior to thresholds you set. When the signal goes outside those thresholds, we create an incident. [Help](#) [View code in ↗](#) ✕

Account: 2511671 - NewRelicUniversity-Japan | Policy: 1065477 - ダッシュボードハンズオン用アラートポリシー

- Define your signal
- Adjust to signal behavior
- Define thresholds
- Add details

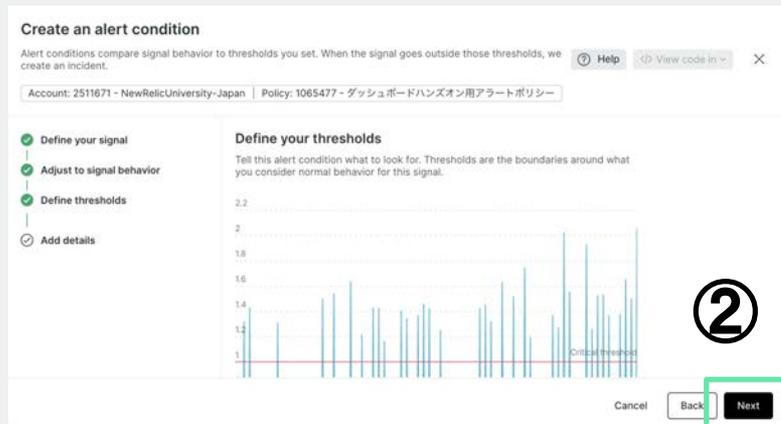
Adjust to signal behavior

To improve your results, tune this condition to adjust for frequency, choppiness, or gaps in your signal.

2.2
2.0
1.8
1.6
1.4
1.2
1.0
Critical threshold

Cancel Back **Next**

①



Create an alert condition

Alert conditions compare signal behavior to thresholds you set. When the signal goes outside those thresholds, we create an incident. [Help](#) [View code in ↗](#) ✕

Account: 2511671 - NewRelicUniversity-Japan | Policy: 1065477 - ダッシュボードハンズオン用アラートポリシー

- Define your signal
- Adjust to signal behavior
- Define thresholds
- Add details

Define your thresholds

Tell this alert condition what to look for. Thresholds are the boundaries around what you consider normal behavior for this signal.

2.2
2.0
1.8
1.6
1.4
1.2
1.0
Critical threshold

Cancel Back **Next**

②

ハンズオン(4) アラートの作成

目的:

- アラート設定のための手順を理解する

ポリシー内にコンディションを追加します

- Nameを入力する
- 画面下部にある Save condition ボタンをクリックする

Create an alert condition

Alert conditions compare signal behavior to thresholds you set. When the signal goes outside those thresholds, we create an incident. [Help](#) [View code in...](#)

Account: 2511671 - NewRelicUniversity-Japan | Policy: 1065477 - ダッシュボードハンズオン用アラートポリシー

Define your signal
Adjust to signal behavior
Define thresholds
Add details

1

Add alert condition details

Make this alert condition easy to find and use.

Name *

Enter a name that's easy to identify

Additional Settings

Close open incidents after 3 days

This setting is related to the issue setting.
When the time periods in these two settings are different, our system uses the shorter time period. For example, if the close open incident time setting is 3 days and the issue time setting is 2 days, our system would wait 2 days before closing the incident.
[View the issue setting](#)

Send a custom incident description (optional)

Cancel Back Save condition



2

Save condition

コンディションを設定するためのさまざまな項目についてご興味のある方は、是非、NRU304のウェビナーをご受講下さい。



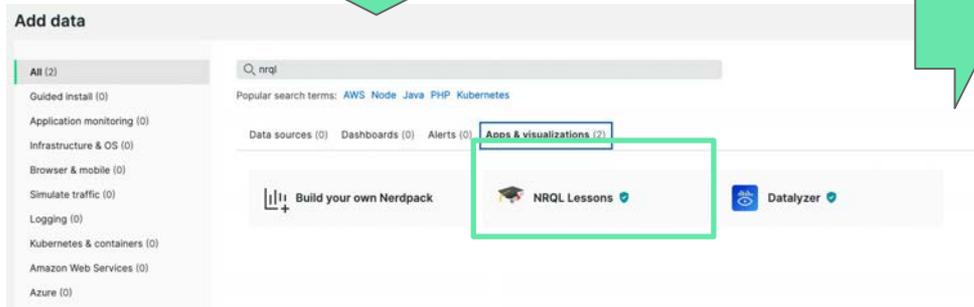
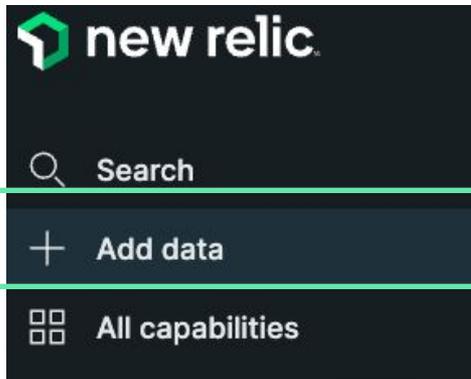
以上、お疲れさまでした！
ご質問があればチャットにご記入ください



弊社サイトからサインアップ！
手順はこちら。

- **100GB/月**まで一生無料
- New Relicの**全機能**が試せる
- クレジットカード不要
- FSOユーザー1名つき！

NRQL Lessons - NRQL学習ツール



NRQLに関するさまざまな利用方法を学習することができます

A screenshot of the NRQL Lessons page. At the top, there is a 'Select Language:' dropdown menu set to '日本語'. Below it is a search bar with the text 'レベル1: コツを掴む'. A list of lessons is shown, with '2. 初めてのクエリ' highlighted in light blue. To the right of the list, there is a section titled '初めてのクエリ' with the text: 'まず、New Relic APMで収集される、Transaction すべてのNRQLクエリは、SELECTとFROMを持たない Transactionイベントの全ての情報を取得する簡単な:'. Below this is a code block with the NRQL query: 'SELECT * FROM Public_APICall'. At the bottom, there is a 'Result' section with columns for 'Timestamp' and 'Api'.



NRU GUIDE

Learning Observability for more perfect software with New Relic One.



Learning Path

Install	NRU 100	NRU 200	NRU 300	NRU 400
<p>インストールガイド</p> <p>New Relic One へのサインアップやエージェントインストールの方法などのガイドを提供</p> <p>APM / Browser / Infrastructure / Logs / Mobile (iOS/Android) / AWS統合 / Azure統合 / GCP統合 インストール手順</p>	<p>基本知識オンデマンドセミナー</p> <p>New Relic One やオペレーターパビリティに関する基礎知識を座学にて学習</p> <p>NRU Practitioner オペレーターパビリティ入門</p> <p>NRU 101 New Relic One 入門</p>	<p>New Relic One 機能解説動画</p> <p>New Relic One に含まれる3つの主要機能に含まれる54の機能群を動画で説明</p> <p>NRU201 Telemetry Data Platform</p> <p>NRU202 Full Stack Observability</p> <p>NRU203 Applied Intelligence</p>	<p>ハンズオントレーニング (エンジニア一般向け)</p> <p>New Relic One を実際に操作し、主要機能を利用できる状態にするためのトレーニング</p> <p>NRU 301 アプリケーションとインフラ性能観測の基本</p> <p>NRU 302 ダッシュボード開発とNRQLの基本</p> <p>NRU 303 SLI/SLO設計の基本</p> <p>NRU 304 AIOps とアラート設計の基本</p>	<p>ハンズオントレーニング (開発者向け)</p> <p>New Relic One の開発者向け機能を利用できる状態にするためのトレーニング</p> <p>NRU 401 IDEと連携し、問題解決を加速するNew Relic活用の実践</p>
<p>▶インストールガイド</p> <p>https://newrelic.com/jp/blog/how-to-relic/new-relic-faststep-guide</p>	<p>▶オンデマンドセミナー</p> <p>(ページ作成中)</p>	<p>▶主要機能解説動画</p> <p>https://newrelic.com/jp/resources/data-sheets/nru201</p>	<p>▶開催スケジュール</p> <p>https://newrelic.com/jp/events</p>	<p>▶開催スケジュール</p> <p>https://newrelic.com/jp/events</p>

Learning Path

New Relic University

自分のレベルに合わせて学びはじめよう

New Relic について学べるコンテンツを New Relic University として無償で公開しています。これから使い始める方も、既に習熟されている方も、お客様のペースで、お好きなところから始めて頂けます。

<p>NRU 101</p> <p>インストール方法を学ぶ</p>  <p>New Relic を実際にインストールするための手順書や必要な情報について学びます。</p> <p>手順を学ぶ</p>	<p>APM / Browser / Infrastructure / Logs / Mobile (iOS/Android) / AWS統合 / Azure統合 / GCP統合 インストール手順</p> <p>手順を学ぶ</p>	<p>NRU 102B</p> <p>主要機能を学ぶ</p>  <p>New Relic の3層の機能レイヤーごとの主要機能を動画視聴で学びます。</p> <p>フロントエンド</p> <p>バックエンド</p> <p>ユースケースに応じた機能</p>	<p>Browser, Mobile, Synthetics (外形監視)について</p> <p>フロントエンド</p>	<p>APM, APM for Serverless, Infrastructureについて</p> <p>バックエンド</p>	<p>Distributed Tracing, Workloads, Errors Inbox, Programmability (NRQL), CodeStream, Service Level Managementについて</p> <p>ユースケースに応じた機能</p>
<p>NRU 102A</p> <p>基本知識を学ぶ</p>  <p>New Relic の全体像やライセンス体系をオンデマンドの動画視聴で学びます。</p> <p>NRU Practitioner</p>	<p>オブザーバビリティ入門</p> <p>NRU Practitioner</p>	<p>New Relic 入門</p> <p>NRU 101</p>	<p>Basic Alert, Proactive Detection, Incident Intelligence, Lookout & Navigatorについて</p> <p>アラート</p>	<p>エージェント経由の Event と Metrics の探索、Log の探索、OSS から送られたデータの探索、Dashboard, Explorer について</p> <p>データ分析</p>	

2023/01 Renewal

既存コンテンツをカテゴリ毎に整理し、新たな動画コンテンツも多数ご用意しました。ぜひご活用ください。

<https://newrelic.com/jp/learn>

NRUG

ぬるぐで学ぶ

New Relic User Group

New Relic ユーザーが集い、実践事例や最新機能紹介などを実施。初心者支部や SRE 支部などが形成されており、エンジニア同士でのネットワーキングや信頼性の高い情報交換が可能。

参加方法はお近くの New Relic 社員まで

Isao Shimizu

SRE Lead

Tsuyoshi Wakamatsu

Infrastructure Lead

Akiko Itatani

SRE Lead

Rin Miyagawa

SRE





以上、お疲れさまでした
ご質問があればチャットにご記入ください
アンケートにご協力お願いいたします

Thank you.

